

昇曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅲ〕

長谷部 宗吉 編

〔編者覚書〕

昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅲ〕

〔編者覚書〕

1. 新たな昇曙夢関連書が出版された。田代俊一郎著『原郷の奄美 ロシア文学者昇曙夢とその時代』（福岡 書肆侃侃房 2009.11.3 215p）、「西日本新聞」に連載したものを纏めたものである。大変興味深く、面白く読ませていただいた。
ひとつだけコメントしておきたい。本書には昇藤子著「思い出の記」（pp.137-182）が収録されている。これは外川継男氏が昇隆一氏の許可を得て雑誌「えうゐ」15号（1986.12.25）に収録し解説されている「思ひ出」（pp.97-119）とほぼ同じものである。
「えうゐ」自体はマイナーな雑誌で知る人ぞ知るという存在であり、また単行本などに収録されておらず20年以上前のものなので、これはこれで資料的価値はある。しかし、注記があればより親切であろう。「えうゐ」のこの号には昇曙夢の「私の信仰告白」（pp.91-95）が収録されており、また、昇藤子著「附・曙夢臨終の記」（pp.119-122）も掲載されているからである。
2. 昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅲ〕は、昭和2（1927）年から昭和19（1944）年の昭和前期を収録対象としている。昭和戦後期以降については順次発表を進めてゆく予定である。
3. 排列などの凡例については「昇曙夢著作年譜（稿）〔Ⅰ〕」（札幌大学女子短期大学部紀要 No.51 2008年3月）の〔編者覚書〕を参照していただきたい。
4. 〔Ⅰ〕、〔Ⅱ〕の補遺については、（補遺Ⅰ）などの形で〔Ⅲ〕のはじめに載せた。
5. 昇曙夢の著作（単行書）の大半は雑誌、新聞などに発表した論文・訳文をもとに作られている。初出タイトルの変更、内容の追加・修正などが行われている。そのために初出などは十分に把握できておらず、その旨ご了解いただきたい。

6. 昭和前期の前半、昇曙夢は昭和3年にトルストイ生誕百年祭にロシアに招待されるなど活躍するのだが、後半は戦争などもあり、その時期の昇曙夢の仕事は困難を極めている。昭和8年から15年にかけて「正教時報」の主幹に就任しここを中心に仕事をしている。しかも「国民精神総動員運動」、「宗教団体法」などがあり、またロシア正教会の内訌も重なり苦難の時代であった。編者の調査も手掛かりが少なく、とてもその全容を把握することは困難である。特に〔I〕の〔編者覚書〕にも記したが、ロシア語学習書については調べがつかっていない。抜け落ちているもの、また誤りなども多々あると思われるのでご教示いただければ幸いである。
7. 和田芳英氏からは貴重な情報をお教えいただいた。また、今回も札幌大学図書館には多大なご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

昇曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅲ〕

（補遺Ⅰ）「逝ける世界的偉人トルストイ伯」

學生（富山房）2巻1号, 117-121（1911.1.1）

（補遺Ⅰ）（訳）『新叙景文範』（作文叢書 第五編）生田長江編 東京 新潮社

1911.2.5 7, 202p 19 cm 奥付の著者表示：生田弘治

内容：（五）湖沼 樺の木立の間の湖水－ザイチェフ（静かな曙）

（pp.99-100）、（六）森林 暴風の森－アンドレエフ（霧）（pp.125-

126）、（九）空 火のやうな夕焼けの空－アンドレーフ（深淵）

（pp.178-179）

（注）目次では曙夢の名でルネ・バザンのものもあるが無関係と判断した。

（補遺Ⅰ）「基督教の歴史的意義」（瀬沼恪三郎編『ニコライ大主教宣教五十年記念集 1861-1911』東京 正教神學校 1911.7.16 所収 pp.100-119）

（注）末尾に（本論を草するに當り、露國評論界の名家ローザノフ氏の筆に成れる『歴史上に於ける基督教の地位』に負ふ所少からず、仍て茲に辭り置く）とあり。

（補遺Ⅱ）「偉大なる包容力（大隈侯人物評—インテリゲンチャ七十名士の回答）」

大觀 5巻2号, 216（1922.2.1）

（補遺Ⅱ）「生活の演劇化といふこと（エフレイノフの隨筆集より）」

日露藝術 6号, 2-9（1926.1.1）

（補遺Ⅱ）「新藝術の使命（巻頭言）」

日露藝術 7号, 1（1926.2.1）

（注）末尾に「（トレチャコフ）」とあり。

（補遺Ⅱ）「各人各説 昇曙夢」

文藝春秋 4年2号, 81（1926.2.1）

（補遺Ⅱ）「ピリニヤーク氏の藝術と思想」

日露藝術 9号, 9-14（1926.5.1）

（補遺Ⅱ）「家庭に於けるトルストイ夫人」

新家庭 7巻8号, 36-41（1926.8.1）

(注) 目次のタイトル: 「トルストイ夫人の家庭生活」

昭和2 (1927) 年

- * 「最近のロシヤ文壇」 不同調 4巻1号, 52-56 (1927.1.1)
- (談) 「人生五十の歳旦」 讀賣新聞 (朝) 17895号, 4 (1927.1.1)
- * 「構成派の藝術」 日露藝術 11号, 2-5 (1927.2.1)
- * 「革命ロシヤの新劇運動 (一) - ロマショーフの「空氣饅頭」に就て」
文藝時報 29号, 1 (1927.3.3)
- * 「露西亞文學の特質 (一) (文藝講座)」ラジオ番組紹介の記事「露文學
の特質」 東京朝日新聞 (朝) 14653号, 8 (1927.3.5)
- (談) 「露西亞文學の特質 (一) (文藝講座)」番組紹介の記事「世界的に雄飛
のロシヤ文學」 讀賣新聞 (朝) 17957号, 9 (1927.3.5)
「露西亞文學の特質 (二) (文藝講座)」は (1927.3.6)
- (監修) 『小説 苦惱の中を行く』アレクセイ・トルストイ著 富永順太郎訳
大阪 近代文藝社 1927.3.10 2.6, 776p 19 cm
- (未見) (監修) 『小説 苦惱の中を行く 下巻』(新興露西亞藝術叢書2) ア
レクセイ・トルストイ著 富永順太郎訳 東京 文化學會出版部
1927.3.10 364-776p 19 cm
(注) 発行日: 国立国会図書館の奥付では手書きで1927.3.20とある。
- * 「革命ロシヤの新劇運動 (二) - ロマショーフの「空氣饅頭」に就て」
文藝時報 30号, 3 (1927.3.10)
- * 「ロシヤ近代劇に就て」(『近代劇全集内容見本』東京 第一書房
1927.4)
(注) 内容見本中の長谷川巳之吉「理想的大出版 近代劇全集」とい
う一文の末尾に「昭和二年四月」とある。頁付けは無い。
- * 「世界文壇を壓倒する大勢力 - 露西亞文學のお話 (世界文學講座 露文
學講座)」(婦人世界學藝部編『袖珍世界文藝名作辭典 - 新時代の若
き女性に贈る -』東京 實業之日本社 1927.4.1 pp.51-54)
(注) 婦人世界 22巻4号附録、別書名『麗女のための世界文藝名作
辭典』

本文のタイトル：「世界の文壇を壓倒する露西亞文學」

- * 「ロシア文學を如何に見るか（二）」[アンケート]
日露藝術 13号, 31 (1927.4.1)
- (訳) 『空氣饅頭—ソヴェート社會喜劇』ベ・ロマシヨフ作 東京 改造社
1927.4.28 3, [1], 180p 19 cm
内容：序（昇曙夢 pp.1-3）、目次（p. [1]）、ソヴェート社會喜劇 空氣饅頭（五幕十五場）（ベ・ロマシヨフ作 pp.1-120）、羽の生えた靴（八場）（ソヴェート・ロシア第一國立兒童劇場用脚本）（ス・アウスレンデル作 pp.121-180）
- * 「ロシアの春」 太陽 33卷5号, 195-202 (1927.5.1)
- * 「新ロシア美術小感」日露藝術 14号, 15-19 (1927.5.1)
- * 「喜劇「空氣饅頭」に就いて」
不同調 4卷5号, 21-23 (1927.5.1)
- (編) 『新ロシア舞臺美術大觀 立體派・構成派・其他の舞臺裝置』（新ロシア・パンフレット 第八編）東京 新潮社 1927.5.5 2, 5, 38p 図版 20 cm
内容：はしがき（pp.1-2）、本文目次（pp.1-5）、畫集目次 一、立體派の舞臺美術（寫真と畫稿）—エクステル女史の舞臺裝置及び衣装、カーメルヌイ座及び藝術座上演 二、構成派及び其他の舞臺美術（寫真と畫稿）—革命座、メイエルフォリド座、其他各種劇場上演 新ロシア舞臺美術解説 一、立體派の舞臺美術（pp.3-25）（一）エクステル女史の背景美學、（二）カーメルヌイ座とエクステル女史、（三）エクステル女史の舞臺裝置、（四）エクステル女史の衣装美學 二、構成派の舞臺裝置（pp.27-37）
- * 「國民藝術への復歸—新ロシア美術展批評」
帝國大學新聞 211号, 6 (1927.5.30)
- * 「モスクヴァの夜（世界首都の夜の色彩）」
新潮 24年6号, 26-29 (1927.6.1)
- * 「新ロシアの産業と美術」
駿工 3卷6号, 5-14 (1927.6.1)

（文責在記者）と末尾にあり

* 「最近のロシヤ劇壇」創造日本 1巻3号, 44-46 (1927.6.1)

* 「日露藝術家の會談記」〔座談会〕

新潮 24年7号, 2-18 (1927.7.1)

出席者：ドブガレウスキイ大使、スパルキン、アルキン、ブーニン、
ガウズネル、ブプノワ女史、テレノフスカヤ女史、昇曙夢、米川正
夫、藏原惟人、小山内薫、廣津和郎、芥川龍之介、中村武羅夫

* 「『父と子』の評判記－露西亞文學史上空前の騒動を社會の各方面に惹
起した小説」 世界文學月報（新潮社）3号, 4 (1927.6.15)

(訳) 『世界戯曲全集 第二十五卷 露西亞篇 (3) 露西亞近代劇集』東京
近代社世界戯曲全集刊行部編刊 1927.7.15 643, 20p 図版 19 cm
内容：人の一生（レオニド・アンドレエフ著 目次の訳者は昇
曙夢であるが本文 p.69 では米川正夫訳となっている。）(pp.69-137)、
我等が生活の日（アンドレエフ著）(pp.215-285)、死の勝利（フ
ヨウドル・ソログウプ著）(pp.411-447)

* 「トルストイとゴーリキイに就いて（作品にまつはる逸話）」

近代劇全集月報 3号, [7] - [8] (1927.8.10)

(訳) 『近代劇全集 三十三卷 露西亞篇』東京 第一書房 1927.9.10 501p
図版 2枚 18 cm

内容：闇の力（レフ・トルストイ pp.13-190）、生ける屍（レフ・
トルストイ pp.191-331）、どん底（マクシム・ゴーリキイ pp.333-
488）、あとがき（昇曙夢著「トルストイと其の戯曲に就いて」pp.491-
497、「ゴーリキイと其の戯曲に就いて」pp.497-501）

* 「トルストイの『復活』 翻譯については多少の抱負がある！」

世界文學月報（新潮社）6号, 6 (1927.9.15)

* 「序」（茂野幽考著『奄美大島民族誌』東京 岡書院 1927.9.15 所収
pp.1-5）

* 「『空氣饅頭』について」

築地小劇場 4巻8号, 13-15 (1927.10.1)

* 「奄美大島と大西郷」東京 春陽堂 1927.10.15 6, 9, 391p 図版 折

り込み図 20 cm

内容：序（昇曙夢著）（pp.1-6）、目次（pp.1-9）、一 大島潛居時代（pp.3-199）、二 徳之島滞在時代（pp.201-264）、三 沖永良部島幽閉時代（pp.265-391）

- (訳) 『世界文學全集 23 卷』東京 新潮社 1927.11.15 16, 559p 20 cm
 内容：序・解説（昇曙夢著 pp.1-12）、トルストイ年譜（pp.13-15）、目次（p.16）、復活（レフ・トルストイ pp.1-481）、主人と下男（トルストイ pp.483-531）、高架索の捕虜（トルストイ pp.532-559）
- * 「ロシア近代劇とチェーホフ」
 世界戯曲全集編輯たより 6号, 1-3 (1927.11.20)
 - * 「空氣假頭を見て」 築地小劇場 4卷9号, 41 (1927.12.1)
 - * 「何人をも感激せしめる『タラス・ブーリバ』」
 世界文學月報（新潮社）9号, 4 (1927.12.15)

昭和3（1928）年

- (未見) 『ロシア語講座 第2-10号』落合文雄編 昇曙夢 [ほか] 講述 東京白揚社 [1928] 23 cm
 (注) 国立情報学研究所 (NII) の NACSIS Webcat の情報による。
- * 「奄美大島に傳はる「あもれをなぐ」の傳説 (一)」
 旅と傳説（三元社）1年1号, 11-20 (1928.1.1)
 - * 「『タラス・ブーリバ』に就て」
 文章倶楽部 13年1号, 64-65 (1928.1.1)
 - * 「現代ロシア文藝思潮」(『大思想エンサイクロペディア 10 文藝思想 (一)』東京 春秋社 1928.1.20 所収 pp.127-181)
 内容：一 國民文學の完成と寫實主義の確立（pp.129-131）、二 四十年代思潮（pp.131-135）、三 六十年代思潮（pp.135-141）、四 民情主義思潮（pp.142-145）、五 田園文明の挽歌（pp.145-148）、六 マルクス主義思潮（pp.148-152）、七 近代主義思潮（pp.152-154）、八 都會文藝思潮（pp.155-160）、九 革命文壇の諸流（pp.160-173）、一〇 プロレタリア文學（pp.173-177）、一一 共產黨の文藝

政策（pp.177-181）

* 「奄美大島に傳はる「あもれをなく」の傳説（二）」

旅と傳説（三元社）1年2号, 21-29（1928.2.1）

（編）『神話傳説大系 第九卷 佛蘭西・露西亞篇』井上勇共編 東京 近代社 1928.4.25 函版 20, 4, 802p 23 cm

のち、『世界神話伝説大系 32 ロシアの神話伝説』（東京 名著普及会 1980.9.20）として改訂版刊行

内容：佛蘭西傳説集解題（pp.1-3）、露西〔亞〕神話傳説集解説（昇曙夢著 pp.4-20）、目次（pp.1-4）、佛蘭西傳説集（井上勇編 pp.1-

438）、露西亞神話傳説集（昇曙夢編 pp.439-802）（一）大勇士傳説

一、スウヤトゴル（pp.441-446）二、ウォリガ・スウヤトスラー

ウィチ（pp.446-450）三、ミクーラ・セリヤニノーウィチ（pp.451-

454）四、スフマン・オディフマンチェウィチ（pp.454-458）（二）小

勇士傳説 一、イリヤ・ムウロメツ（pp.459-479）二、ダブルイニ

ャ・ニキイティチ（pp.479-497）三、アリヨーシャ・ポポーウィチ

（pp.497-515）四、バルダク・ポリシェウィチ（pp.515-529）五、エ

ゴリイ・フラブルイ（pp.529-538）、六、サゾコ（pp.539-548）七、

ワシーリイ・ブスラーエフ（pp.548-557）八、勇士の最期（pp.557-

563）（三）神話お伽噺 一、王女と水晶の山（pp.564-569）二、化石

の國（pp.569-571）三、霜の小父さん（pp.571-579）四、お日様とお

月様と鴉（pp.580-583）五、朝と晝と夜（pp.584-598）六、銅の國、

銀の國、金の國（pp.598-605）七、怪獸退治（pp.605-607）八、狐長

者（pp.607-617）九、七人兄弟（pp.618-622）十、鬼の女房（pp.622-

627）十一、運勢（pp.627-629）十二、貧乏神（pp.629-639）十三、一

つ眼婆（pp.639-643）十四、黄金の鶏（pp.643-649）十五、ダニー

ロと白鳥姫（pp.649-658）（四）歴史傳説（史話）一、スコピン・シ

ュイスキイ（pp.659-660）、二、シチエルカン・ドゥーデンチェウ

チ（pp.661-663）三、ミハイロ・カザリノフ（pp.663-664）四、バフ

メエト王とアウドーチヤ・リヤザアノチカ（pp.665-666）五、マル

ウシヤ・ボグスラフカ（pp.666-668）六、アゾフから逃げた三人兄

弟 (pp.668-672) 七、ママイ・ベズボージュヌイ (pp.672-680) 八、涙の泉 (pp. 680-682) 九、イワン雷帝 (pp.682-688) 十、皇帝と壺屋 (pp.688-694) 十一、エルマークの遠征 (pp.694-707) 十二、ステンカ・ラージン (pp.708-716) 十三、ドゥネープルの古塔 (pp.716-728) 十四、ピョートル一世の平生 (pp.728-732) 十五、ピョートル大帝と逃亡兵 (pp.732-735) 十六、マゼパの陰謀 (pp.736-739) (五) 邊疆傳説 一、タマーラ女王 (pp.740-773) 二、エフシナ姫 (pp.773-795) 三、鷲岩 (pp.795-802)

* 「奄美大島の民謡 - (八千代節) -」

旅と傳説 (三元社) 1年4号, 77-83 (1928.4.1)

* 「モスクワの工藝博物館に就いて」

帝國工藝 2巻4号, 25-27 (1928.4.1)

* 「『空氣饅頭』とその作者に就いて」

日露藝術 20号, 22-26 (1928.4.1)

* 「勞農結合の詩人ドローニン」

農民 (第一次) 2巻4号, 8-10 (1928.4.1)

(注) 末尾に「(コーガン教授の論文に據る)」とあり。

(談) 「映畫と文學 (上)」 秋田魁新報 13263号, 4 (1928.4.12)

のち、「旭川新聞 (朝)」3341号 (1928.11.21) に再録。

(談) 「映畫と文學 (下)」 秋田魁新報 13264号, 4 (1928.4.13)

のち、「旭川新聞 (朝)」3342号 (1928.11.22) に再録。

(訳) 『プロレタリア文學論』 [(マルクス主義文藝理論叢書 第一編)]

ペ、コーガン教授著 東京 白揚社 1928.4.16 10, [1], 285p 19 cm

(注) 函書に叢書名の表記は無いが『マルクス主義批評論』

(1929.7.5) の刊行広告 (マルクス主義藝術理論叢書と誤表記であるが) の最初に表示されている。

内容: 日本譯への序文 (ペ、エス、コーガン著 pp.1-4)、原著者の自叙傳 (pp.5-7) はしがき (昇曙夢著 pp.9-10)、目次 (p. [1])、
「十月革命」以前 (pp.3-40)、「鍛冶屋」時代 (pp.41-107)、「十月」時代 (pp.108-168)、「若き親衛隊」について (pp.169-233)、理論と批評

(pp.234-285)

- * 「鎌倉と東京の間 (私の一日 六十四家)」 [アンケート]
文章倶楽部 13年5号, 88 (1928.5.1)
- * 『革命後のロシヤ文學』 東京 改造社 1928.5.15 2, 2, 348p 20 cm
内容 : はしがき (pp.1-2) 目次 (pp.1-2) 革命文壇の諸流 (pp.1-12) アクメイズムの藝術的意義 (pp.13-22) オポヤズ一派の運動と主張 (23-37) 未來派とその代表的詩人 (pp.38-49) レフの藝術的運動 (pp.50-62) 構成派の藝術 (pp.63-70) プロレタリア文學の發達 (pp.71-79) 現代ソヴェート文學と社會性 (ピリニャーク) (pp.80-101) ソヴェート文學の十年間 (ウオロンスキイ) (pp.102-123) ピリニャークとエレンブルグ (pp.124-139) 革命文壇の收穫 (pp.140-148) 新ロシヤ文壇の問題 (pp.149-158) 共產黨の文藝政策 (pp.159-168) 革命後の演劇とその方向 (pp.169-182) 革命劇壇の驍將メイエルフォリド (pp.183-198) メイエルフォリドの歩いた道 (ガウズネル) (pp.199-214) タイロフの新寫實主義 (pp.215-224) ソヴェート戯曲と『空氣饅頭』 (ガウズネル) (pp.225-236) 舞臺上の立體派と構成派 (pp.237-242) 演劇雜感 (エフレイノフ) (pp.243-253) 革命後の美術界 (pp.254-265) ロシヤ美術の新潮流 (アルキン) (pp.266-275) ソヴェート・ロシヤに於ける新宗教運動 (pp.276-287) 文化事業の十年間 (pp.288-294) 附録 新ロシヤの社會相 (pp.295-348) (一) 新ロシヤの悩み (pp.295-318) (二) 婦人と家庭 (pp.318-332) (三) ニューブ時代の初期 (pp.332-348)
- * 「片上伸氏の遺著『露西亞文學研究』 (Book Review)」
東京日日新聞 (朝) 18583号, 4 (1928.5.21)
- * 「最近のゴーリキイ」 改造 10卷6号, 1-12 (1928.6.1)
- * 「現代ソヴェート文學に就て (勞農ロシヤ文壇の現状)」
新潮 25年6号, 70-76 (1928.6.1)
- * 「南の島々より」 民族 3卷5号, 201-204 (1928.7.1)
- (訳) 『マルクス主義藝術論』 (マルクス主義文藝理論叢書 第二篇) ルナチヤールスキイ著 東京 白揚社 1928.7.30 7, 245p 20 cm

内容：原出版者より（革命ロシヤ美術家協會 pp.1-4）序（昇曙夢著 pp.5-6）目次（p.7）一、藝術とマルクス主義（pp.3-18）二、藝術と産業（pp.19-37）三、藝術と階級（pp.38-45）四、美とその種類（pp.46-104）五、藝術と生活（pp.105-173）附録、キルヘルム・ハウゼンシュタイン論（pp.175-245）

* 「シベリヤの夏」 旅と傳説（三元社）1年8号, 28-31（1928.8.1）

（講演）「トルストイの藝術と思想 [上]」

國民新聞（朝）13165号, 5（1928.8.27）

（講演）「トルストイの藝術と思想 [中]」

國民新聞（朝）13166号, 5（1928.8.28）

（講演）「トルストイの藝術と思想 [下]」

國民新聞（朝）13167号, 5（1928.8.29）

（注）「以上は本社主催のト翁生誕百年祭記念講演會に於ける講演筆記」と末尾にある。

（談）「ゆつくり見物して來る（杜翁記念祭に昇氏招かる）」

讀賣新聞（朝）18500号, 7（1928.8.31）

* 「ソヴェートロシアの惱み」

現代 9卷9号, 98-99（1928.9.1）

* 「唐人物語」 旅と傳説（三元社）1年9号, 25-30（1928.9.1）

（談）「昇曙夢氏談」 東京朝日新聞（夕）15254号, 2（1928.10.27）

（注）トルストイ生誕百年祭に出席した際のコメント

（談）「昇氏歸朝すートルストイ百年際を終へ」

讀賣新聞（朝）18557号, 4（1928.10.27）

（談）「ロシアを歎いてー昇曙夢氏歸る」

東京朝日新聞（朝）15257号, 7（1928.10.30）

* 「ロシヤから」 日露藝術（日露藝術協會）23号, 25（1928.11.1）

（注）以下、全文を記す。

「 御健康を祈ります。

十日より八日間に亘るトルストイ記念祭も十七日文部人民委員會主催の祝典で終りを告げました。

協會からの祝電に對してはウオクスで心から満足と感謝の意を表してゐました。

九月十九日

昇曙夢

- * 「展望車より－伯林への車中にて－」
近代劇全集月報 18号, 1-3 (1928.11.10)
- * 「ト翁記念祭週間（一）」
東京朝日新聞（朝）15273号, 6 (1928.11.15)
- * 「ト翁記念祭週間（二）」
東京朝日新聞（朝）15274号, 10 (1928.11.16)
- * 「ト翁記念祭週間（三）」
東京朝日新聞（朝）15275号, 5 (1928.11.17)
- * 「ト翁記念祭週間（四）」
東京朝日新聞（朝）15277号, 5 (1928.11.19)
- * 「ト翁記念祭週間（五）」
東京朝日新聞（朝）15278号, 7 (1928.11.20)
- * 「映畫と文學（一）（学藝）」
旭川新聞（朝）3341号, 4 (1928.11.21)
- * 「ト翁記念祭週間（六・完）」
東京朝日新聞（朝）15279号, 5 (1928.11.21)
- * 「最近ソヴェート劇壇と歌舞伎の影響（上）（文藝）」
讀賣新聞（朝）18582号, 4 (1928.11.21)
- * 「映畫と文學（二）（学藝）」
旭川新聞（朝）3342号, 4 (1928.11.22)
- * 「最近ソヴェート劇壇と歌舞伎の影響（下）（文藝）」
讀賣新聞（朝）18583号, 4 (1928.11.22)
- * 「ソヴェート劇壇消息（一）」
近代劇全集月報 19号, 2-4 (1928.12.10)
- * 「ソウエトロシヤの實況（感想及研究）」昇直隆著
正教時報 17卷12号, 13-14 (1928.12.10)

（注）卷末に「（文の責任は記者にあり）」とある。

昭和4 (1929) 年

- * 「現下のロシア國情 (世界各國最近の動向)」
改造 11 卷 1 号, 91-94 (1929.1.1)
- * 「訪露感想二三」 旅と傳説 (三元社) 2 年 1 号, 59-65 (1929.1.1)
- * 「モスクウィンとカチャーロフ」
悲劇喜劇 4 号, 85-90 (1929.1.1)
- * 「ソヴェート劇壇消息 (下)」
近代劇全集月報 20 号, 2-4 (1929.1.10)
- * 「(第二十四回配本露西亞篇廿九卷) の作品に就いて (アンドレーエフ、
チリコフ、ソログープ)」
近代劇全集月報 22 号, 3-4 (1929.3.10)

(注) 実際の号数表記は 23 号と誤記

(講演) 「サウエート聯邦と文化施設」(「露西亞事情講演集－露西亞通信社創立
三週年記念」東京 露西亞通信社 1929.3.15 所収 pp.11-36)

(注) 昭和四年二月十五日 於・東京朝日講堂

内容：概観、監獄の内部、工場と其設備、労働者に對する施設、利
用されぬ諸設備、學術科學的方面、文藝界の新傾向、理想と現實の
悩み、サウエート劇壇の情況

- * 「エレンブルグを探ねて－『歐洲の滅亡』の作者」
世界文學月報 (新潮社) 24 号, 7 (1929.3.20)
- * 「ゴリキイ訪問記」改造 11 卷 4 号, 109-116 (1929.4.1)
- * 「最近ロシア劇壇の問題 (ソヴェート演劇研究)」
ソヴェート藝術 1 号, 35-39 (1929.4.1)
- * 「歌舞伎とロシア演劇座談會 歌舞伎劇は露西亞で如何に評價された
か? 歌舞伎俳優の目に映じたるロシア劇?」出席者：河原崎長十
郎、藏原惟人、秋田雨雀、茂森唯士、昇曙夢、中村徳二郎
ソヴェート藝術 1 号, 75-84 (1929.4.1)

(訳) 『近代劇全集 第二十九卷 露西亞篇』東京 第一書房 1929.4.10
572p 肖像 19 cm

内容：人の一生 (アンドレーエフ pp.15-130)、我等が生活の日

(アンドレーエフ pp.131-254)、毆られる彼奴(アンドレーエフ pp.255-402)、死の勝利(ソログーブ pp.403-466)、森の秘密(チリコフ pp.467-560)、あとがき([昇曙夢]著 pp.561-572)

(訳) 『世界戯曲全集 第二十七巻 露西亞篇 (五) 勞農露西亞劇集』東京 世界戯曲全集刊行會 1929.4.10 636p 函版 19 cm
内容: 空氣饅頭(ベ・ロマシヨーフ作 pp.361-481)

(訳) 『世界文學全集 38巻 新興文學集』新潮社編 東京 新潮社 1929.4.20 16,574p 20 cm
内容: 解説-『トラストD・Eとその作者』(昇曙夢著 pp.1-4)、
トラストD・E(ヨーロッパ滅亡物語)(イリヤ・エレンブルグ作 pp.1-143)

(訳) 「トラストDE」イリヤ・エレンブルグ原作 メエエルホリット脚色
村山知義アレンジ

心座パンフレット5号(第十回公演), 1-15(1929.4.26)

(注) 『世界文學全集』所載のものに基づく

(編) 『ソヴェートロシヤ 漫畫・ポスター集』東京 南蠻書房 1929.5.1
4, 4, 130(函版), 47(本文) p 23 cm
奥付の編者名: 昇直隆
内容: 序(pp.1-4) 目次(pp.1-4) 第一部 口繪、新風俗(pp.1-9) 第二部 國際漫畫、人物漫畫(pp.10-41) 第三部 ポスター類、宣傳列車(pp.42-77) 第四部 宗教漫畫、ミニャチュール(pp.78-94) 第五部 時事漫畫、構成派(pp.95-111) 第六部 文壇漫畫、學生々活(pp.112-122) 第七部 新モスクヴァ名所、カット四題(pp.123-130)、ソヴェート・ロシヤ側面觀—その時代相と社會相(pp.1-47)、一 はしがき、二 ニュープ時代の初期、三 夜のモスクヴァ、四 ニュープマン、五 過渡期の矛盾、六 レーニン廟と聖母堂、七 コムソモル、八 エシェーニン主義、九 コムソモルカ、十 家庭悲劇、十一 結婚風俗、十二 新生活と新風習、十三 やもめ村、十四 宣傳列車と宣傳汽船、十五 レフオルト監獄、十六 工場と託兒所、十七 母性の保護、[十八] 農民の家と勞働宮、十九 マルクス・エンゲルス

研究學院、廿 國立藝術科學院、廿一 プロレタリア大學生、廿二 宗教狀態

- (編) 『ソヴェートロシヤ 漫畫・ポスター集 (普及版)』東京 南蠻書房
1929.5.1 130 (函版) p 22 cm
奥付の編者名：昇直隆
内容：第一部 口繪、新風俗 (pp.1-9) 第二部 國際漫畫、人物漫畫 (pp.10-41) 第三部 ポスター類、宣傳列車 (pp.42-77) 第四部 宗教漫畫、ミニャチュール (pp.78-94) 第五部 時事漫畫、構成派 (pp.95-111) 第六部 文壇漫畫、學生々活 (pp.112-122) 第七部 新モスクヴァ名所、カット四題 (pp.123-130)
- * 「新ロシヤの宗教運動」
現代佛教 61号, 40-45 (1929.5)
- * 「私の見たソヴェート映畫」[アンケート]
ソヴェート藝術 1卷2号, 37 (1929.5.1)
- * 「劇場としてのモスクワ藝術座」
悲劇喜劇 8号, 45-50 (1929.5.1)
- (訳) 「(巻頭詩) 十月の日の相貌 - 昇曙夢氏の譯文から」ベヅミヨンスキイ
[作] 十月 創刊号, 巻頭 (1929.6) 「大學左派」の改題
- * 「ゴーリキイと語る (海外文學者との會見記)」
文學時代 1卷2号, 52-54 (1929.6.1)
- (訳) 『マルクス主義批評論』(マルクス主義文藝理論叢書 第四篇) レージ
ユネフ著 東京 白揚社 1929.7.5 2, 2, 253p 20 cm
内容：序文 (昇曙夢著 pp.1-2)、目次 (pp.1-2)、一、藝術理論家としてのプレハーノフ (pp.3-68) 二、プレハーノフと現代の批評 (pp.69-87) 三、レーニンと藝術 (pp.88-100) 四、プロレット・カルトとプロレタリア藝術 (pp.101-178) 五、マルクス主義批評史より (179-253)
- (訳) 「靜かな曙」ボリス・ザイツェフ作 (『世界文學全集 36卷 近代短篇小説集』東京 新潮社 1929.7.25 所収 pp.425-435)
内容：解説 露西亞篇 (昇曙夢著 pp.10-13)

(未見) (述) 『最近ロシヤ事情』(教化資料 第八十七輯) 昇直隆 東京 中央
教化團體聯合會 1929.8.5 52p 19 cm

(注) 四月九日、財團法人皇民會主催の講話

のち、和田芳英著「ロシア文学者、昇曙夢のソ連観－昭和四年の講演資料紹介」(「叢」大谷中・高等学校機関誌 30号 2003.3.15) 所収。

* 「勞農露國文化建設の現状」

朝鮮及滿洲 261号, 22-25 (1929.8.5)

(訳) 「マルクス主義藝術論」ルナチヤールスキイ著 (『社會思想全集 第二十四卷』東京 平凡社 1929.9.20 所収 pp.1-132)

内容：原出版者より(革命ロシヤ美術家協會 pp.3-5) 目次 (p.7)

一、藝術とマルクス主義 (pp.9-19) 二、藝術と産業 (pp.20-33) 三、藝術と階級 (pp.34-39) 四、美とその種類 (pp.40-82) 五、藝術と生活 (pp.83-132)

* 「革命と文學 (最近革命批判)」

祖國 2卷 10号, 203-212 (1929.10.1)

* 「ロシヤ近代劇の發展」

近代劇全集月報 29号, 1-4 (1929.10.10)

(注) 実際の号数表記は30号

* 「マキシム・ゴーリキイ評傳」(『ゴーリキイ全集 第十九卷』東京 改造社 1929.10.15 所収 pp.343-439)

内容：ゴーリキイの生涯と藝術 (pp.345-403)、ゴーリキイの思想・人物・業績 (pp.404-439)

(注) 末尾に「(本篇は特にその上編に於て、コーガン教授の近著『ゴーリキイ』に據るところが多かつたことを附記しておく。)」とあり。

* 「ロシヤ近代劇の發展 (二)」

近代劇全集月報 30号, 1-3 (1929.11.10)

* 「ロシヤ近代劇の發展 (三)」

近代劇全集月報 31号, 1-3 (1929.12.10)

- * 「昭和四年よさらば（七）（読書・出版界）」[アンケート]
 讀賣新聞（朝）18966号,7（1929.12.13）
- (訳) 『ゴリキイ全集 第四巻』東京 改造社 1929.12.18 4, [1], 381p
 肖像 20cm
 内容：解説（昇曙夢著 pp.1-4）、目次（p. [1]）、フォマ・ゴルデー
 エフ（pp.1-308）、曾て人間であった人々（pp.309-381）

昭和5（1930）年

- * 「ロシヤ近代劇の發展（四）」
 近代劇全集月報 32号,2-3（1930.1.10）
- * 「ロシヤ國民生活の現状」（社會教育パンフレット 第九十四輯）東京
 社會教育協會 1930.1.20 42p 19cm
 本文巻頭のタイトル：「ソヴェート治下に於けるロシヤ國民生活の現
 状」
 内容：はしがき（pp.1-2）一、左傾か右傾か（pp.2-4）二、工業化の
 現状（pp.4-6）三、都市と農村（pp.6-9）四、政府の對策（pp.10-11）
 五、岐路に立つ（pp.11-13）六、社會文化施設（pp.13-17）七、科學
 の殿堂（pp.18-20）八、宗教と宗教運動（pp.21-28）九、エシェーニ
 ン主義（pp.28-30）十、アルコール退治（pp.30-31）十一、家庭悲劇
 （pp.32-34）十二、結婚風俗（pp.34-36）十三、やもめ村（pp.36-40）
 十四、コムソモールカ（pp.40-42）
- (訳) 『近代劇全集 三十二卷 露西亜篇』東京 第一書房 1930.2.10 508p
 肖像 19cm
 内容：熊の結婚（ルナチャールスキイ pp.15-190）、ミステリヤ・
 ブッフ（マヤコーフスキイ pp.191-274）、コーリカ・スツープン
 （アウスレンデル、ソロドフニコフ合作 pp.275-403）、玩具騒動
 （バルドーフスキイ pp.405-454）、檢察官（エフレイノフ pp.455-
 496）、あとがき（昇曙夢著 pp.497-508）
- * 「ロシア近代劇の發展（五）」
 近代劇全集月報 33号,1-2（1930.2.10）

- * 「熊の結婚」とミステリヤ・ブッフに就いて-熊の結婚の選まれた理由」
近代劇全集月報 33号, 2-7 (1930.2.10)
- * 『最近のソヴェートロシア』(クロモシ리즈) 東京 三省堂
1930.2.28 2, 77p 図版 19 cm
本文、表紙のタイトル: 『最近のソヴェートロシア』
内容: 目次 (pp.1-2)、一、はしがき (pp.1-3)、二、戦時共産主義時代 (pp.3-7)、三、新経済政策 (pp.7-11)、四、農民政策 (pp.11-13)、五、工業化の現状 (pp.14-15)、六、都市と農村 (pp.15-17)、七、輸出入と貨幣相場 (pp.17-19)、八、政府の対策 (pp.19-21)、九、政策の矛盾 (pp.21-23)、十、レホルト監獄 (pp.23-25)、十一、工場と託児所 (pp.25-27)、十二、農民の家と労働宮 (pp.27-31)、十三、科学の殿堂 (pp.31-34)、十四、青年共産聯盟 (pp.34-37)、十五、エシエニン主義 (pp.37-39)、十六、女子共産黨員 (pp.40-43)、十七、家庭悲劇 (pp.43-45)、十八、結婚風俗 (pp.46-48)、十九、やもめ村 (pp.48-51)、廿、新生活と新風習 (pp.51-55)、廿一、宗教状態 (pp.56-61)、廿二、レーニン廟と聖母堂 (pp.61-66)、廿三、最近のロシア劇壇 (pp.66-77)
- * 「ロシア近代劇の發展 (六)」
近代劇全集月報 34号, 1-3 (1930.3.10)
- * 「ロシア近代劇の發展 (六)」
近代劇全集月報 35号, 1-3 (1930.4.10)
(注) (六) とあるのは (七) の誤り
- * 「勞農露國の農業と工業の現状」
農政研究 9卷4号, 76-81 (1930.4.1)
- (訳) 『藝術社會學』 ヴラヂーミル・フリーチェ著 東京 新潮社 1930.4.12
14, 6, 288p 肖像 20 cm
内容: 序 (昇曙夢著 pp.1-3)、原書の序 (pp.5-7)、原著者から日本譯へ (ヴラヂーミル・フリーチェ著 pp.8-9)、原著者の略傳 (pp.10-11)、本書に對する讚辭 (pp.12-14)、目次 (pp.1-6) 一、藝術社會學の問題 (pp.3-13) 二、藝術の發生 (pp.15-21) 三、藝術の社會的機

能 (pp.23-44) 四、藝術的生産の形式 (pp.45-63) 五、美術の隆盛と衰頹 (pp.65-78) 六、藝術の二つの根本的典型 (pp.79-91) 七、建築・彫刻及び繪畫の覇權の推移 (pp.93-102) 八、建築の根本的二様式 (pp.103-112) 九、繪畫の二つの典型 (pp.113-122) 一〇、藝術に於ける理想主義的様式と寫實主義的様式 (pp.123-147) 一一、藝術に於ける動物・植物・人物及び事物 (pp.150-156) 一二、藝術に於ける勞働 (pp.157-170) 一三、藝術に於ける兒童 (pp.171-177) 一四、裸體畫 (pp.179-194) 一五、肖像畫 (pp.195-204) 一六、宗教畫と風俗畫 (pp.205-216) 一七、風景畫と靜物畫 (pp.217-230) 一八、藝術に於ける運動・遠近・光線の諸問題 (pp.231-249) 一九、色彩の社會學 (pp.251-261) 二〇、藝術に於ける階級闘争と階級同化 (pp.263-280) 二一、工業資本主義の藝術 (pp.281-288)

- * 「露西亞文學概觀」(『世界文學講座 第九卷 露西亞文學篇』東京 新潮社 1930.4.20 所収 pp.1-74) のち、普及版 (1932.2.10)
 内容：第一章 古代及中世時代、第二章 近世啓蒙時代、第三章 様式探求時代、第四章 寫實主義確立時代、第五章 社會思潮黎明期と反動期 (四〇年代)、第六章 大改革時代と虛無主義時代 (六〇年代)、第七章 民情派時代 (七〇年代)、第八章 幻滅時代と田園文明没落期 (八〇年代)、第九章 ロシヤ・マルクス主義時代 (九〇年代)、第十章 デカダン象徵派と都會文學、第十一章 革命前期
- * 「近代寫實劇の發達 (劇の發達とその特質)」(『世界文學講座 第九卷 露西亞文學篇』東京 新潮社 1930.4.20 所収 pp.106-129) のち、普及版 (1932.2.10)
- * 「勞農ロシヤの宗教干涉問題－舊宗教と新宗教の盛衰」
 中央佛教 14 卷 5 号, 12-14 (1930.5.1)
- * 「露西亞近代劇の發展 [八]」
 近代劇全集月報 36 号, 1-4 (1930.5.10)
- (訳) 「近代詩人集 露西亞詩篇」(『世界文學全集 37』東京 新潮社 1930.5.20 所収 pp.432-450)
 内容：ドミトリイ・メレジュコーフスキイ、コンスタンチン・バリ

モント、ワレーリイ・ブリューソフ、ヒョードル・ソログーブ、ジ
ナイダ・ギッピウス、ヴィヤチエスラフ・イワノフ、セルゲイ・
ゴロデーツキイ、イワン・ブーニン

- * 「ウラジミール・フリーチエ著 藝術社會學について 譯者 昇曙夢」
名古屋新聞（朝）12284号, 5（1930.6.2）
- * 「革命と文學」（文藝家協會編『文藝評論集 第一輯（昭和五年版）』東
京 新潮社 1930.6.3 所収 pp.247-259）
（注）「祖國」2卷10号（1929.10.1）の再録
- * 「近代人の色々な問題を盛った『最後の一線』に就いて」
世界文學月報（第二期）（新潮社）2号, 1-2（1930.7.1）
- （講演）『露國革命とソヴェート治下の國情』（思想研究資料 海軍省教育局
〔編〕45號）昇直隆講演〔東京〕海軍省教育局 1930.9 45p 23cm
（注）表紙に「（昭和五年九月以印刷代謄寫）」とあり。
また、冒頭に「本講演は本年五月思想講習に於て行はれたるものな
り」とある。
- （談）「勞働青年の原稿に埋まるゴーリキー（世界人の横顔 56）」
東京朝日新聞（朝）15931号, 2（1930.9.8）
- （訳）『近代劇全集 三十四卷 露西亜篇』東京 第一書房 1930.9.10 560p
肖像 19cm
内容：リュボオヴィ・ヤロワーヤ（カ・トゥレニョフ pp.13-203）、
十月革命（ア・エム・グローモフ pp.205-255）、宣告（ソフィ
ヤ・レヴィチナ pp.257-426）、劇場内の裁判（ゲフトマン pp.427-
445）、反響（ビ・リ・ベロツェルコーフスキイ pp.447-553）、あと
がき（昇曙夢 pp.555-560）
- （訳）『プロレタリア文學論』（「マルクス主義の旗の下に」文庫 7）ペ、
コーガン教授著 東京 白揚社 1930.9.20 7, [1], 250p 16cm
内容：序（昇曙夢著 pp.1-2）、日本譯への序文（ペ、エス、コー
ガン著 pp.3-5）、原著者の自叙傳（pp.6-7）、目次（p. [1]）、「十
月革命」以前（pp.3-36）、「鍛冶屋」時代（pp.37-95）、「十月」時
代（pp.96-148）、「若き親衛隊」について（pp.149-205）、理論と批評

(pp.206-250)

- * 「現代露西亞文學概観（現代露西亞文學）」（『世界文學講座 第十三卷 現代世界文學篇（下）』東京 新潮社 1930.9.23 所収 pp.184-196）のち、普及版（1932.8.10）
- * 「〔読書・出版アンケート〕」
読書新聞（朝）19255号,4（1930.10.2）
- * 「反ソヴェート戦争起らば！」〔アンケート〕
ナップ 1巻4号,33（1930.12.15）

昭和6（1931）年

- * 「トルストイ「戦争と平和」（文藝講座）」ラジオ番組紹介の記事「解剖される『戦争と平和』」
読書新聞（朝）19352号,5（1931.1.8）
「トルストイ「戦争と平和」（つゞき）（文藝講座）」は（1931.1.9）
- (訳) 「どん底」（『ゴロキイ全集 第八巻』東京 改造社 1931.1.25 所収 pp.343-429）
- * 『世界現状大観 VII ソヴェト・ロシア篇』東京 新潮社 1931.3.5
508p 23cm 折込み地図一枚あり
内容：社会思想問題の解剖（pp.251-284）社会的動搖と反革命事件（五ヶ年計畫の社会的意義、農村の動搖と搾取農の運命、改造期に於ける社会的課題、失業者問題と就業状態、文化状態と生活改善、學者専門家に對する彈壓、最高學府の廓清問題）、社会主義建設の禍根（階級闘争と反革命運動、『ウクライナ解放同盟』の策謀、大露西亞主義と地方的國家主義、産業黨事件と階級闘争、産業黨陰謀の結社、産業黨失敗の重大原因）、検討されつゝある思想問題（建設の新段階と新課題、現代思想問題の基調、哲學戦線の論争、右翼日和見主義の批判、觀念論に對する闘争、思想戦線の達成と將來の展望）、宗教撲滅の國民的運動（ソヴェト治下に於ける宗教の地位、プハーリンの反宗教論、宗教撲滅五年計畫、外國輿論とソヴェト側の反駁、政府の緩和策と宗教の將來）

新興ソヴェート文學の展望 (pp.323-353) 開花期に向ふプロレタリア文學 (プロ文學の隆盛期、藝術的方法の對立抗爭、社會的獨自性を持つ『靜かなドン』、『木材工場』の批評、集團農業化を主題に、プロ文學に於ける現代様式の典型、プロ文學の開拓者、革命後の新時代を描く、社會主義的文化の建設へ)、大衆性を持つ農民文學 (農民作家の一群、社會性と個人性の悲劇、新時機を劃した農民文學、輝かしい未來を豫想される)、轉換期にある同伴者文學 (分裂した同伴者文學の三團體、旗幟の不鮮明なブルジョア文學、革命の慘禍を象徴的に描いた『孔雀』、イワーノフの藝術觀、ピリニャークの藝術的モチーフ、舊同伴者の人々、革命同伴者の作家群、同伴者文學の將來)、演劇の新革命 (未曾有の新演劇形式へ、劇壇に於ける現下の問題、國內同胞戦とヒロイズム、ナンセンスな喜劇と諷刺劇、歴史的な記録劇、社會的ヒロイック劇の發展)、ソヴェート美術の新様式 (ソヴェート美術の過渡時代、美術團體の分裂抗爭、特色的な『フィローノフ』會、プロ美術と新形式、労働者の自由藝術、左翼美術家の合同)

* 「赤露の生活實相」 國本 11卷4号,55-58 (1931.4.1)

内容: エシエーニン主義、アルコール退治、家庭悲劇、結婚風俗

* 「最近ソヴェート文藝界 (新ロシアの正體—最近ロシアの研究)」

祖國 4卷4号,26-33 (1931.4.1)

内容: 一 最尖端を行くプロレタリア文學、二 ソヴェート美術の大衆的形式

(訳) 『世界文學全集 第二期 (14)』東京 新潮社 1931.4.30 10, 516p 20 cm

内容: 解説 (昇曙夢著 pp.1-9)、目次 (p.10)、決闘 (アレキサンドル・クープリン作 pp.1-224)、ヤーマ (アレキサンドル・クープリン作 pp.225-516)

* 「クープリンの生活より—その作品に絡まる二三の挿話」

世界文學月報 (第二期) (新潮社) 10号, 1

(1931.4.30)

* 「ソヴェート映畫の指導原理」

改造 13 卷 5 号, 141-150 (1931.5.1)

(注) 末尾に「(最近発行のソヴェート文藝年鑑に據る)」とあり

* 「近頃の感想」 東京朝日新聞 (朝) 16190 号, 9 (1931.5.28)

* 「ペンネーム・本名の由來 (文藝)」

讀賣新聞 (朝) 19491 号, 4 (1931.5.28)

以下、全文を引用する (ルビは省略)。

「確明治三十四、五年の頃であつたと思ふ。内村鑑三氏が泰西詩人の詩を譯して『愛吟』といふ小型の詩集を出されたことがある。其頃の多數の青年學生と同じく内村先生崇拜者の一人であつた私は、この詩集を同氏の他の著作同様愛誦したものだ。そしてその巻頭に掲げた題詩 - 詩人の名は忘れた - 『詩は英雄の暁の夢なり』といふ一句が、當時のロマンチックな學生の私にはひどく氣に入つたので、そこから曙夢といふペンネームを思ひついたのである。」

* 「最近ソヴェート農民文學の動向 (一)」

東京朝日新聞 (朝) 16202 号, 5 (1931.6.9)

* 「最近ソヴェート農民文學の動向 (二)」

東京朝日新聞 (朝) 16203 号, 5 (1931.6.10)

* 「最近ソヴェート農民文學の動向 (三・完)」

東京朝日新聞 (朝) 16204 号, 5 (1931.6.11)

* 『トルストイ』東京 三省堂 1931.6.15 10, 5, 326, 6p 肖像 図版 2 枚 20 cm

内容：序 (アレクサンドラ・トルスタヤ著 pp.1-5)、序 (昇曙夢著 pp.7-10) 目次 (pp.1-5)、一 緒論 ロシヤの良心 (pp.1-7)、二 幼・少・青年時代 (pp.7-15)、三 中央文壇に於けるトルストイ (pp.16-21)、四 青年時代の内面生活 (pp.21-25)、五 外遊前後 (pp.25-32)、六 教育事業 (pp.32-38)、七 『戦争と平和』 (pp.38-53)、八 有るがまゝの自然 (pp.53-58)、九 人生觀・戦争觀 (pp.58-62)、一〇 シブウニン事件 (pp.62-65)、一一 教育事業の再興・飢民救済 (pp.65-68)、一二 『アンナ・カレニナ』 (pp.68-91)、十三 懷疑・煩悶・轉機 (pp.91-99)、一四 宗教上の疑

問 (pp.99-105)、一五 福音書の研究・翻譯 (pp.105-109)、一六 皇帝への上書 (pp.110-114)、一七 農夫シュタエフの教義 (pp.114-122)、一八 眞の基督教と教會の教義 (pp.122-131)、一九『我等何を爲すべきか』 (pp.131-134)、二〇 ボンダリョフと其の汎勞主義 (pp.134-139)、二一 トルストイと其の家族 (pp.139-143)、二二 貴族生活の苦悶・勞働生活 (pp.143-150)、二三 「ボスレードニク」社の設立 (pp.150-155)、二四 性慾其の他の惡癖に就いて (pp.155-160)、二五 再度の大飢饉と救濟事業 (pp.160-167)、二六 無抵抗主義 (pp.167-171)、二七 ズホボル教徒とトルストイ (pp.171-177)、二八 基督の教義・飢饉論 (pp.177-181)、二九 國家と愛國心 (pp.182-186)、三十『復活』 (pp.186-195)、三一 破門とトルストイの辯明 (pp.195-203)、三二 各階級への勸告・上書 (pp.203-210)、三三 勞働階級と其の解放策 (pp.210-218)、三四 社會主義者とトルストイ (pp.218-222)、三五 土地問題と其の解決案 (pp.222-229)、三六 日露戦争とトルストイ (pp.229-233)、三七 革命運動とトルストイ (pp.233-240)、三八 死刑論 (pp.240-245)、三九 トルストイ教徒に對する迫害 (pp.246-252)、四〇 人類の教師として (pp.252-261)、四一 晩年の生活と著作 (pp.261-270)、四二 家出の念願 (pp.270-275)、四三 家出の原因と遺書 (pp.275-281)、四四 家出の顛末 (pp.281-289)、四五 修道院訪問 (pp.289-293)、四六 發病と終焉 (pp.293-305)、四七 「緑の杖」宿願成就 (pp.305-312)、四八 結論 悲劇の意義 (pp.312-326) 附・トルストイ年譜 (pp.1-6)

- * 「解放への道」(文藝家協會編『詩と隨筆集 第四集 (昭和六年版)』東京 新潮社 1931.7.1 所収 pp.289-292)
- * 「露西亞の寫實主義及び自然主義文藝 (世界文學各論—現實主義及び自然主義文藝)」(『世界文學講座 第一卷 世界文學總論篇』東京 新潮社 1931.7.20 所収 pp.185-196) のち、普及版 (1933.4.15)
 内容：一、露西亞寫實主義の特質 二、寫實主義の發生過程 三、寫實主義確立時代 四、西歐文學の影響 五、「自然派」とその藝術

六、現實暴露の悲哀 七、近代寫實主義の發展

* 「最近ソヴェート文壇の展望」

東京堂月報 18卷15号,1-2 (1931.9.1)

昭和7 (1932) 年

* 「露西亞文學概観」(『世界文學講座 第九卷 露西亞文學篇』東京 新潮社 1932.2.10 所収 pp.1-74) 1930.4.20 刊の普及版

内容：第一章 古代及中世時代、第二章 近世啓蒙時代、第三章 様式探求時代、第四章 寫實主義確立時代、第五章 社會思潮黎明期と反動期 (四〇年代)、第六章 大改革時代と虛無主義時代 (六〇年代)、第七章 民情派時代 (七〇年代)、第八章 幻滅時代と田園文明没落期 (八〇年代)、第九章 ロシヤ・マルクス主義時代 (九〇年代)、第十章 デカダン象徴派と都會文學、第十一章 革命前期

* 「近代寫實劇の發達 (劇の發達とその特質)」(『世界文學講座 第九卷 露西亞文學篇』東京 新潮社 1932.2.10 所収 pp.106-129) 1930.4.20 刊の普及版

* 「ソヴェート映畫監督論—ヴェルトフ、エイゼンシュテイン、プドーフキンの藝術を語る」 新潮 29年3号,57-65 (1932.3.1)

* 「新舊ロシヤ文學批判」

ソヴェート知識 創刊号,5-22 (1932.3.1)

(談) 「教官を辭す昇曙夢氏—文筆生活に」

東京朝日新聞 (朝) 16491号,7 (1932.3.26)

* 「ソヴェート・ロシアに於ける宗教と反宗教運動」(宇野圓空編『反宗教運動の批判』東京 近代社 1932.4.10 所収 pp.161-177)

(未見) 『速成新ロシヤ語自修講座 (1-6)』昇曙夢、高野槌藏、山内封介、落合文雄著 東京 白揚社 1932-1934

(注) 国立国会図書館に「第1冊、第3～6冊」が所蔵されている。

(訳) 「スポーツ藝術社會學 [一]」ミレーエフ著 (原名「藝術と體育文化」の翻訳) 社會學徒 6卷7号,1-8 (1932.7.1)

内容：コーガン教授の序文、序説

- * 「新舊ロシヤ文學批判（二）」
ソヴェート知識 2号, 21-32 (1932.7.1)
- * 「トルストイの人生日記（批評と紹介）」
讀賣新聞（朝）19905号, 4 (1932.7.18)
- (訳) 「スポーツ藝術社會學（二）」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」
の翻訳] 社會學徒 6卷8号, 1-8 (1932.8.1)
内容：一、古代東方の藝術（一）古代東方藝術に於ける體力の主題、
（二）アツシリヤ藝術に於ける力の崇拜、（三）古代エジプト藝術に
於ける體育の主題
- * 「現代露西亞文學概觀（現代露西亞文學）」（『世界文學講座 第十三卷
現代世界文學篇（下）』東京 新潮社 1932.8.10 所収 pp.184-196）
1930.9.23 刊の普及版
- (訳) 『零落者の群』（世界名作文庫 露西亞篇 311）ゴーリキイ [作] 東京
春陽堂 1932.9.1 112p 17 cm
- (述) 「最近ソヴェート文壇の情勢」
社會學徒 6卷9号, 1-11 (1932.9.1)
（注）末尾に「（六月十一日、日本大學社會學會に於ける講演筆記）」
とあり
- (訳) 「スポーツ藝術社會學（三）」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」
の翻訳] 社會學徒 6卷9号, 38-43 (1932.9.1)
内容：二、古代ギリシヤの藝術と體育（一）ギリシヤ藝術に於ける
體育の意義、（二）古代ギリシヤに於ける體育文化の社會學
- * 「最近ソヴェート文藝書の展望」
書物展望 2卷9号, 2-6 (1932.9.1)
- * 「ソヴェート聯邦に於ける反宗教運動」
世界知識 3卷3号, 344-349 (1932.9.1)
内容：憲法による信仰の自由、宗教に對する彈壓迫害、生ける教會
と正教會、反宗教宣傳の規定、クリスマスの廢止、反宗教の諸組織、
宗教撲滅は可能か
- * 「社會主義的再建設期の文學」

世界知識 3巻3号, 355-359 (1932.9.1)

内容：ソヴェート文壇の諸情勢、プロレタリア文學の主流、代表的な諸作品、ボクダーノフとキーン、堅實なる寫實主義、最近のソヴェート映畫（飛躍するトーキー、人生案内、靜かなるドン、ソエーズ・キノの藝術音畫、メジラブポム社の作品）

- (訳) 『虐げられし人々 前篇』(世界名作文庫 露西亞篇 303) ドストエフスキ作 東京 春陽堂 1932.9.5 10, 291p 16 cm
内容：序 (昇曙夢著 pp.3-8) 凡例 (pp.9-10) 虐げられし人々 前篇 (pp.1-291)
- (訳) 『虐げられし人々 後篇』(世界名作文庫 露西亞篇 304) ドストエフスキ作 東京 春陽堂 1932.9.5 336p 17 cm
内容：虐げられし人々 後篇 (pp.1-336)
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (四)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 6巻10号, 9-16 (1932.10.1)
内容：(三) 優勝競技家の古期彫像、(四) 裸體とギリシヤ藝術、(五) 初期ギリシヤ藝術に於ける體育型
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (五)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 6巻11号, 25-30 (1932.11.1)
内容：(六) 裸體美崇拜と體育、(七) ギリシヤ藝術に [於] ける體育裸體の特質
- (述) 「藝術家としてのゴリキー (ゴリキーのページ)」
新ロシア 1巻4号, 72-76 (1932.11.1)
- (訳) 『トルストイ童話集』(少年文庫 13) L.N.トルストイ著 東京 春陽堂 1932.11.5 2, 203p 図版 16 cm
内容：序 (昇曙夢 pp.1-2)、童話篇：蛇の頭と尻尾 (p.2)、細い絲 (p.3)、遺産の分配 (pp.3-4)、猿 (p.5)、猿と豌豆 (pp.5-6)、牛乳 (p.6)、鴨と月 (pp.6-7)、埃を浴びた狼 (p.7)、穀倉の鼠 (pp.7-8)、一番美しい梨 (pp.8-9)、鷹と鶏 (pp.9-10)、山狗と象 (pp.10-11)、鷺と魚と蟹 (pp.12-13)、水神と眞珠 (pp.13-14)、盲人と牛乳 (pp.14-15)、狼と弓 (pp.16-17)、網にかかった鳥 (pp.17-18)、王様

と鷹 (pp.18-20)、王様と象 (pp.20-21)、悪の出所 (pp.21-25)、狼と獵夫 (pp.25-26)、二人の百姓 (p.26)、百姓と馬 (pp.27-28)、二頭の馬 (pp.28-29)、斧と鋸 (pp.29-30)、犬と料理人 (pp.30-31)、兎と獵犬 (pp.31-32)、櫛の樹と胡桃の林 (pp.32-33)、牝鶏と雛 (pp.33-34)、鶉とその雌 (pp.34-35)、牝牛と山羊 (pp.36-37)、狐の尻尾 (pp.37-38)、お伽篇：二人兄弟 (pp.40-43)、大僧正と強盜 (pp.44-48)、國老アブドゥール (pp.48-50)、孝子の譽 (pp.50-52)、王様と小屋 (pp.52-54)、王様と襯衣 (pp.54-56)、親馬鹿 (pp.56-60)、邪心の僕 (pp.60-65)、黄金と勞働 (pp.65-69)、金髮王女 (pp.69-71)、物語篇：棄子 (pp.74-75)、農夫と胡瓜 (pp.75-76)、火事 (pp.76-78)、老馬 (pp.78-82)、乗馬の稽古 (pp.82-86)、プーリカ (pp.89-90)、龜 (pp.99-101)、プーリカと猪 (pp.101-105)、プーリカの災難 (pp.105-109)、プーリカとミリトンの最期 (pp.109-111)、野兎 (pp.111-113)、熊狩 (pp.113-128)、エルマークの遠征 (pp.128-143)、高架索の捕虜 (pp.145-203)

- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (六)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 6卷12号, 1-9 (1932.12.1)
内容：(八) ギリシヤ美術最盛期の理想的體育型、(九) 實用美術に於ける競技的主題、(十) ギリシヤ美術に於ける婦人の肉體美

昭和8 (1933) 年

- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (七)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7卷1号, 27-35 (1933.1.1)
内容：(十一) 體育衰頹期のギリシヤ美術、(十二) ギリシヤ美術に於ける運動の問題

* 「『生命への哲學的奮闘』(圖書)」

讀賣新聞 (朝) 20082号, 12 (1933.1.13)

- (訳) 『プロレタリア文學論』(改造文庫 第一部 第八十七篇) ペ・コーガン著 東京 改造社 1933.1.20 262p 16cm
(注) 紙装版による

内容：日本譯への序文（コーガン著 pp.3-5）原著者の自叙傳（pp.6-7）はしがき（昇曙夢 pp.8-9）目次（p.11）一、十月革命以前（pp.13-46）二、「鍛冶屋」時代（pp.47-105）三、「十月」時代（pp.106-159）四、「若き親衛隊」について（pp.160-216）五、理論と批評（pp.217-262）

- * 『露西亞文學概論』東京 平凡社 1933.1.20 5, 3, 469p 函版 20 cm
 内容：序（pp.1-5）、目次（pp.1-3）、**露西亞文學概論**（社會學的乃至辯證法的觀點に據る）一、**露西亞文學概説** 一、古代及中世時代（pp.4-24）、二、近世啓蒙時代（pp.25-32）、三、様式探求時代（pp.32-38）、四、寫實主義確立時代（pp.38-47）、五、社會思潮黎明期と反動期（四〇年代）（pp.47-59）、六、大改革時代と虚無主義時代（六〇年代）（pp.60-72）、七、民情派時代（七〇年代）（pp.72-77）八、幻滅時代と田園文明没落期（八〇年代）（pp.77-86）、九、ロシヤ・マルクス主義時代（九〇年代）（pp.86-95）、一〇、デカダン象徴派と都會文學（pp.95-106）一一、革命前期（pp.106-113）、一二、新興ソヴェート文學（pp.114-129）、一三、最近ソヴェート文學の情勢（pp.129-153）、二、**口碑文學の研究** 一、傳説の研究（pp.156-173）、二、お伽噺の研究（pp.174-197）、三、民謡の研究（pp.198-234）三、**寫實主義文藝の發達** 一、ロシヤ寫實主義の發達と特質（pp.236-252）、二、近代寫實劇の發達と特質（pp.252-288）、四、**近代抒情詩の發達** 抒情詩に於ける純藝術派と人生派 一、プーシキンとレルモントフ（pp.190-293）、二、純藝術派と人生派（pp.293-296）、三、純藝術派の詩人（pp.296-327）、四、人生派の詩人（pp.328-342）、五、**近代批評文學と藝術思想の發達** 一、ベリンスキイの社會的藝術觀（pp.344-362）、二、チェルヌイシェーフスキイの功利的藝術觀（pp.362-374）、[三]、ドブロリユーボフの現實的藝術觀（pp.374-387）、四、ピーサレフの藝術否定論（pp.387-401）、五、ミハイロフスキイの社會學的批評（pp.402-408）、六、プレハーノフのマルクス主義的藝術觀（pp.408-428）、六、**舊露西亞文學と新露西亞文學**（pp.429-469）

- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (八)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7卷2号, 27-34, 45 (1933.2.1)
内容：(十三) スポーツ彫刻の材料としての青銅、(十四) ヘレニズム時代の美術に於ける體育の主題
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (九)」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7卷3号, 1-7, 22 (1933.3.1)
内容：三、中世紀及び文藝復興期の美術 (一) 體育文化と基督教、(二) 文藝復興期の美術に於ける體育の主題
- (未見) 『實用露語新訳本』昇直隆著 満蒙知識社 1933.4 84p
- (未見) 『満蒙學校講義録；露西亞語』1933.4—
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 [十]」ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7卷4号, 1-7 (1933.4.1)
内容：四、近代美術 (一) 古典主義と裸體美、(二) ロシヤの院體派彫刻に於ける體育の主題
- * 「露西亞の寫實主義及び自然主義文藝 (世界文學各論—現實主義及び自然主義文藝) (『世界文學講座 第一卷 世界文學總論篇』東京 新潮社 1933.4.15 所収 pp.185-196) 1931.7.20刊の普及版
内容：一、露西亞寫實主義の特質 二、寫實主義の發生過程 三、寫實主義確立時代 四、西歐文學の影響 五、「自然派」とその藝術 六、現實暴露の悲哀 七、近代寫實主義の發展
- (訳) 『闇の力・生ける屍』(改造文庫 第二部 第二百二十四篇)トルストイ著 東京 改造社 1933.4.21 347p 16cm (注) 布装版による
内容：序 (昇曙夢著 pp.3-10)、目次 (p.11)、闇の力 (五幕) (pp.13-200)、生ける屍 (六幕) (pp.201-347)
- * 「ソヴェートの反宗教運動 (一) 『無神論者同盟』」
報知新聞 20219号, 5 (1933.4.21)
- * 「ソヴェートの反宗教運動 (二) 活動内容と事業」
報知新聞 20220号, 5 (1933.4.22)
- * 「ソヴェートの反宗教運動 (三) 政府も痛し痒し」
報知新聞 20221号, 5 (1933.4.23)

- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (十一)」 ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7巻5号, 22-28 (1933.5.1)
 内容: (三) 十九世紀末及び二十世紀初頭の美術に於ける發達せる裸體、(四) フランツ・シユトウークの藝術、(五) 現代美術に於ける體育文化の意義
- * 「島の思ひ出一(かけろま歳時記)一」
 旅と傳説 (三元社) 6年5号 (65号), 2-12 (1933.5.1)
 のち、本山桂川編『嶋と嶋人』(東京 八弘書店 1942.11.30 所収)
 また、池田弥三郎 [等] 編『日本民俗誌大系 第十卷 未刊資料 I』
 (東京 角川書店 1976.7.10 所収)
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 (十二)」 ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7巻6号, 35-44 (1933.6.1)
 内容: (六) 美術及び寫眞に於ける體育運動の問題、(七) サーシャ・シユナイダーとその作品、(八) 現代歐米のスポーツ美術
- * 「島の思ひ出 (二) 一(かけろま歳時記)一」
 旅と傳説 (三元社) 6年6号 (66号), 75-84 (1933.6.1)
 のち、本山桂川編『嶋と嶋人』(東京 八弘書店 1942.11.30 所収)
 また、池田弥三郎 [等] 編『日本民俗誌大系 第十卷 未刊資料 I』
 (東京 角川書店 1976.7.10 所収)
- (訳) 「スポーツ藝術社會學 最終編 [十三]」 ミレーエフ著 [原名「藝術と體育文化」の翻訳] 社會學徒 7巻7号, 1-7 (1933.7.1)
 内容: 五、ソヴェート聯邦の藝術 (一) ソヴェート聯邦の藝術とスポーツ
- * 「渡來二十五年 (社説)」 昇直隆著
 正教時報 22巻7号, 1-3 (1933.7.20)
- * 「挨拶に代えて」 昇直隆著
 正教時報 22巻7号, 30-32 (1933.7.20)
- * 「モナコ受難記」 政界往來 4巻8号, 5-7 (1933.8.1)
 (注) 以前の号にも別な記事があるとのこと。
- * 「島の思ひ出 (三) 一(かけろま歳時記)一」

旅と傳説（三元社）6年8号（68号）、16-22（1933.8.1）

のち、本山桂川編『嶋と嶋人』（東京 八弘書店 1942.11.30 所収）

また、池田弥三郎〔等〕編『日本民俗誌大系 第十卷 未刊資料Ⅰ』

（東京 角川書店 1976.7.10 所収）

（講演）「ソビエツトの横顔 A」

旭川新聞（朝）4997号、2（1933.8.13）

（注）8月7日、旭川商工會議所における講演速記録。

（講演）「ソビエツトの横顔 B」

旭川新聞（朝）4998号、2（1933.8.14）

（講演）「ソビエツトの横顔 C」

旭川新聞（朝）4999号、2（1933.8.15）

（講演）「ソビエツトの横顔 D」

旭川新聞（朝）5000号、2（1933.8.16）

（講演）「ソビエツトの横顔 E」

旭川新聞（朝）5001号、2（1933.8.17）

（講演）「ソビエツトの横顔 F」

旭川新聞（朝）5002号、2（1933.8.18）

（講演）「ソビエツトの横顔 G」

旭川新聞（朝）5003号、2（1933.8.19）

（講演）「ソビエツトの横顔 H」

旭川新聞（朝）5004号、2（1933.8.20）

* 「思想對策と宗教家の覺醒（社説）」昇直隆著

正教時報 22卷8号、1-2（1933.8.20）

* 「希望と計畫（社説）」昇直隆著

正教時報 22卷8号、2-3（1933.8.20）

* 「ソヴェート反宗教運動の動向」昇直隆著

正教時報 22卷8号、4-7（1933.8.20）

（講演）「ソビエツトの横顔 [I]」

旭川新聞（朝）5005号、2（1933.8.21）

（講演）「ソビエツトの横顔 完」

旭川新聞（朝）5006号, 2（1933.8.22）

- * 「序」（文英吉著『奄美大島民謡大観』名瀬町（鹿児島）南島文化研究社 1933.9.5 所収 pp.1-5）
- * 「社會不安の根源」昇直隆著

正教時報 22 卷 9 号, 1-2（1933.9.20）
- * 「教育の刷新と宗教家の活動」昇直隆著

正教時報 22 卷 9 号, 3-4（1933.9.20）
- * 「湘南その折々」 正教時報 22 卷 9 号, 24-27（1933.9.20）

内容：一、讀書の秋 二、神に就ての一考察 三、反宗教運動者に
四、労働奉仕の生活 五、精神的の深み
- * 「編輯後記」昇直隆著

正教時報 22 卷 9 号, 41（1933.9.20）
- * 「序」（都成南峰著『奄美史談 附南島語及文學』鹿児島 山元徳二
[刊] 1933.9.25 所収 pp.1-4）[都成植義著] 沖縄県立図書館所蔵本
（謄写版）
- * 「近代文藝十二講」（新潮文庫 第六十九編）生田長江、森田草平、野上白川、昇曙夢著 東京 新潮社 1933.9.27 442p 17 cm

内容：第十講 露西亞近代文学（pp.322-375）（一）國民文學の樹立、（二）社會的傾向、（三）自然主義、虛無主義、（四）愛他主義、宗教的傾向、（五）最近文壇の概観、（六）象徴主義、神秘主義、（七）象徴主義以外の諸派、（八）波蘭文學の一瞥
- * 「今日の問題」昇直隆著

正教時報 22 卷 10 号, 1-3（1933.10.1）

内容：一、學生思想問題 二、父と子の問題 三、入學難と就職問題
- * 「北國の鐘にまつはる哀話（湘南その折々）」

正教時報 22 卷 10 号, 18-21（1933.10.1）
- * 「編輯を終へて」 正教時報 22 卷 10 号, 35（1933.10.1）
- * 「現代ソヴェート文學概観」

若草 9 卷 10 号, 148-151（1933.10.1）

- * 「「ひらかれた處女地」を読む（ブックレビューと出版界）（文藝）」
讀賣新聞（朝）20348号,4（1933.10.8）
- * 「人生をヨリ善くするために」昇直隆著
正教時報 22卷11号,1-2（1933.11.1）
- * 「モスクワ郊外の秋（思ひ出）（湘南その折々）」
正教時報 22卷11号,24-27（1933.11.1）
- * 「イヴァン・ブーニンの人と藝術」
帝國大學新聞 503号,7（1933.11.27）
- * 「中央と地方教會」昇直隆著
正教時報 22卷12号,1-3（1933.12.1）
- * 「教會指導精神の確立」昇直隆著
正教時報 22卷12号,3-4（1933.12.1）
- * 「一老婦の生涯と臨終（湘南その折々）」
正教時報 22卷12号,34-38（1933.12.1）
- * 「松田教授の「和露大辭典」（圖書）」
讀賣新聞（朝）20419号,11（1933.12.18）
- * 「主體の推移＝一九三三年末の曙光＝（クリスマス所感）（文藝）」
讀賣新聞（朝）20425号,4（1933.12.24）

昭和9（1934）年

- * 「降誕の意義」昇直隆著
正教時報 23卷1号,1-4（1934.1.1）
- * 「湘南その折々」 正教時報 23卷1号,29-33（1934.1.1）
内容：一、北國の冬 二、クリスマス風景 三、新年風俗
- * 「諸民族のクリスマス傳説」
旅と傳説（三元社）7年1号（71号）,22-26（1934.1.1）
のち、正教時報 24卷1号（1935.1.1）に再録
- * 「日本正教會の再建設」昇直隆著
正教時報 23卷2号,1-3（1934.2.1）
- * 「故大主教を憶ふ」昇直隆著

- 正教時報 23 卷 2 号, 3-5 (1934.2.1)
- * 「逝けるルナチャールスキイの思ひ出」
文藝 2 卷 2 号, 84-85 (1934.2.1)
- * 「正教と新人道主義」昇直隆著
正教時報 23 卷 3 号, 1-5 (1934.3.1)
- (訳) 「ドストエーフスキイ復活せば—藝術家及び思想家としてのドストエーフスキイ」ルナチャールスキイ著
文學評論 1 卷 1 号, 2-14 (1934.3.1)
- * 「翻訳者としての感想 (ドストイエフスキイ研究特輯)」
浪漫古典 (昭和書房) 1 輯, 83 (1934.4.1)
(注)「再版保存版」としてハードカバー版が 1934.9.18 に刊行されている。
復刻版：『ドストエフスキイ文献集成 第 7 卷』東京 大空社
1995.12.22
- * 「最近のソヴェート文學と音樂」(『ロシア讀本』東京 日本評論社
1934.4.1 所収 pp.215-231)
(注) 經濟往來 9 卷 4 号別冊附録
内容：一、ソヴェート文學に就いて 二、ソヴェート音樂に就いて
- * 「復活の鐘は鳴る」昇直隆著
正教時報 23 卷 4 号, 3-5 (1934.4.1)
- * 「復活祭の頃 (湘南その折々)」
正教時報 23 卷 4 号, 22-25 (1934.4.1)
- * 『ロシア語入門』落合文雄編著 東京 白揚社 1934.4.15 1 冊 23 cm
講述：昇曙夢、高野槌蔵、山内封介、落合文雄
(注)「ロシア語講座」第 1 至 3 卷の合本
- * 「正教會奉神禮の特徴」昇直隆著
正教時報 23 卷 5 号, 1-4 (1934.5.1)
- (講演)「私とロシア文學」講演の友 34 号, 2-40 (1934.5.9)
(注) 場所：昭和 9 年 4 月 4 日 於 本郷基督教青年會館
主催：明治文學研究會

* 『ソヴェト・ロシアの知識』(萬有知識文庫 第20) 東京 非凡閣

1934.5.10 2, 4, 304p 18 cm

内容：序 (pp.1-2)、目次 (pp.1-4)、はしがき (pp.1-2)、一 ソヴェト聯邦の政治 (pp.3-18)、二 ソヴェト經濟の發展 (pp.18-43)、三 ソヴェト聯邦の資源と産業分布 (pp.44-56)、四 産業の管理と組織 (pp.57-68)、五 ソヴェト聯邦の工業 (pp.68-123)、六 ソヴェト聯邦の農業 (pp.123-148)、七 ソヴェト聯邦の交通運輸と通信 (pp.148-157)、八 ソヴェト聯邦の商業 (pp.157-166)、九 大衆の生活と労働 (pp.166-188)、十 ソヴェト聯邦の婦人と結婚問題 (pp.188-204)、十一 ソヴェト聯邦共産黨の諸問題 (pp.204-217)、十二 赤軍の編成と實力 (pp.217-232)、十三 宗教と反宗教運動 (pp.233-241)、十四 ソヴェト聯邦の藝術 (pp.242-280)、十五 ソヴェト聯邦の教育 (pp.280-296)、十六 ソヴェト聯邦の學術 (pp.296-304)

(訳編) 『ドストエーフスキー再觀』東京 ナウカ社 1934.5.16 2, 2, 297p 20 cm

標題紙の書名：『綜合研究 ドストエーフスキー再觀』

内容：序 (昇曙夢 pp.1-2) 目次 (pp.1-2) 昇曙夢譯編「綜合研究 ドストエーフスキー再觀 (マルクス主義の照明の下に)」(pp.1-205) ドストエーフスキーの略傳 (ゲオルギイ・チュルコフ pp.3-19)、ドストエーフスキーの生涯と藝術 (藝術上の新語) (リヴォフ・ロガチエーフスキー pp.21-80)、ドストエーフスキーの様式と方法 (ウエ・ペレヴェルゼフ pp.81-94)、ドストエーフスキーの特質 (ソロウイヨフ・アンドレーエウイチ pp.95-122)、ドストエーフスキーの小市民性と國際性 (エル・ヴォイトローフスキー pp.123-137)、藝術家及び思想家としてのドストエーフスキー (ア・ルナチャールスキー pp.139-160)、ドストエーフスキー評價の再検討 (ヴェ・ペレヴェルゼフ pp.161-200)、西歐に於ける影響 (ファチーマ・リーザ・ザーデ pp.201-205)、作品研究 (昇曙夢著 pp.207-294) 『罪と罰』の研究 (pp.209-230) 二、『白痴』の研究 (pp.231-254) 三、『悪靈』の研究 (pp.255-274) 四、『カラマーゾフ兄弟』の研究 (pp.275-

294) 附録 ドストエーフスキイ年譜 (pp.295-297)

のち、普及版『総合研究 ドストエーフスキイ再観』(東京 ナウカ社 1935.11.11) 復刻版、『ドストエーフスキイ文献集成 第9巻』(東京 大空社 1995.12.22)

(訳) 「人生訓」昇直隆訳 正教時報 23巻6号, 1-3 (1934.6.1)

内容：一、トルストイ語録 二、ゴーリキイ語録

(編著) 『フランス・ロシヤ神話傳説集』(『神話傳説大系 第十一巻』) 井上勇 共編 東京 誠文堂 1934.6.20 3, 20, 4, 802p 23 cm

(注) 内容は下記『フランス・ロシヤ 神話と傳説』と同じ。

(編著) 『フランス・ロシヤ 神話と傳説』井上勇 [共] 編著 東京 大洋社出版部 1934.6.20 20, 4, 802p 23 cm 前小口アンカット本

(注) 巻末の広告に「大洋社神話叢書」とあり

内容：佛蘭西傳説集解題 (pp.1-3) 露西 [亞] 神話傳説集解説 (昇曙夢著 pp.4-20) 佛蘭西傳説集 (pp.1-438) 露西亞神話傳説集 (一) 大勇士傳説、一、スウヤトゴル (pp.441-446)、二、ウォリガ・スウヤトスラーウイチ (pp.446-450)、三、ミクーラ・セリヤニノウイチ (pp.451-454)、四、スフマン・オディフマンチュウイチ (pp.454-458)、(二) 小勇士傳説 一、イリヤ・ムウロメツ (pp.459-479)、二、ダブルイニヤ・ニキイティチ (pp.479-497)、三、アリョーシヤ・ポポーウイチ (pp.497-515)、四、バルダク・ポリシェウイチ (pp.515-529)、五、エゴリイ・フラブルイ (pp.529-538)、六、サヅコ (pp.539-548)、七、ワシーリイ・ブスラーエフ (pp.548-557)、八、勇士の最期 (pp.557-563)、(三) 神話お伽噺 一、王女と水晶の山 (pp.564-569)、二、化石の國 (pp.569-571)、三、霜の小父さん (pp.571-579)、四、お日様とお月様と鴉 (pp.580-583)、五、朝と晝と夜 (pp.584-598)、六、銅の國、銀の國、金の國 (pp.598-605)、七、怪獸退治 (pp.605-607)、八、狐長者 (pp.607-617)、九、七人兄弟 (pp.618-622)、十、鬼の女房 (pp.622-627)、十一、運勢 (pp.627-629)、十二、貧乏神 (pp.629-639)、十三、一つ眼婆 (pp.639-643)、十四、黄金の鶏 (pp.643-649)、十五、ダニーロと白鳥姫 (pp.649-

658)、(四) 歴史傳説 (史謠) 一、スコピン・シュイスキイ (pp.659-660)、二、シチエルカン・ドゥーデンバフチェウイチ (pp.661-663)、三、ミハイロ・カザリノフ (pp.663-664)、四、メエト王とアウドーチヤ・リヤザアノチカ (pp.665-666)、五、マルウシヤ・ボグストラフカ (pp.666-668)、六、アゾフから逃げた三人兄弟 (pp.668-672)、七、ママイ・ベズボージュヌイ (pp.672-680)、八、涙の泉 (pp.680-682)、九、イワン雷帝 (pp.682-688)、十、皇帝と壺屋 (pp.688-694)、十一、エルマークの遠征 (pp.694-707)、十二、ステンカ・ラージン (pp.708-716)、十三、ドゥネープルの古塔 (pp.716-728)、十四、ピョートル一世の平生 (pp.728-732)、十五、ピョートル大帝と逃亡兵 (pp.732-735)、十六、マゼパの陰謀 (pp.736-739)、(五) 邊疆傳説 一、タマーラ女王 (pp.740-773)、二、エフシナ姫 (pp.773-795)、三、鷲岩 (pp.795-802)

(編著) 『フランス・ロシヤ 神話と傳説』(神話傳説大系) 井上勇共編 東京 神谷勤 1934.6.20 20, 4, 802p 23 cm 発売: 趣味の教育普及会 標題紙に大京堂版とあり

内容: 佛蘭西傳説集解題 (pp.1-3) 露西 [亞] 神話傳説集解説 (昇曙夢著 pp.4-20) 佛蘭西傳説集 (pp.1-438) 露西亞神話傳説集 (一) 大勇士傳説 (pp.441-458) (二) 小勇士傳説 (pp.459-563) (三) 神話お伽噺 (pp.564-658) (四) 歴史傳説 (史謠) (pp.659-739) (五) 邊疆傳説 (pp.740-802)

* 「公會への希望」昇直隆著

正教時報 23 卷 7 号, 1-3 (1934.7.1)

* 『ロシア文學の知識』(萬有知識文庫) 東京 非凡閣 1934.7.15 288p 18 cm 背・表紙(カバー)の書名: 『ロシア文學の知識』、表題紙・奥付の書名: 『ロシア文學の知識』

内容: 目次 (pp.1-4) 一、古代及び中世文學 (pp.5-20) (一) 口碑文學、(二) 記録文學 二、近世文學 (pp.20-63) (一) 啓蒙時代、(二) 様式探究時代、(三) 浪漫主義時代、(四) 寫實主義確立時代 三、近代文學 (pp.63-205) (一) 四〇年代、(二) 大改革時代 (六〇

年代)、(三) 民情派時代 (七〇年代)、(四) 幻滅時代 (八〇年代)
四、露西亞軌近派の文學 (pp.205-288) (一) ロシヤマルクス主義時代 (九〇年代)、(二) テカダン象徴派の運動、(三) 都會文學、(四) 革命前期 (反動時代)

(訳) 『ツルゲーネフ全集 第六卷』東京 隆章閣 1934.7.20 [1], 441p
 図版 20 cm

内容：父と子 (pp.1-386)、戀の凱歌 (pp.387-426)、解題 (昇曙夢著 pp.427-441)

* 「靈肉一致の宗教」昇直隆著

正教時報 23 卷 8 号, 1-4 (1934.8.1)

(訳) 『人は何によつて生きるか』(新潮文庫 110) トルストイ著 (久保正夫と分担訳) 東京 新潮社 1934.8.11 [1], 177p 17 cm

内容：目次 (p. [1])、序 (昇曙夢著 pp.1-2)、人は何によつて生きるか (昇曙夢訳 pp.3-51)、二老人 (昇曙夢訳 pp.52-93)、蠟燭 (昇曙夢訳 pp.94-111)、神は眞實を見給ふされど待ち給ふ (昇曙夢訳 pp.112-129)、人はどれだけの土地を要するか (久保正夫訳 pp.130-162)、小鬼とパン切れ (久保正夫訳 pp.163-170)、鶏の卵のやうに大きな穀粒 (久保正夫訳 pp.171-177)

(訳) 『チェーホフ傑作集』(改造文庫 第二部 第二百五十篇) チェーホフ著
 東京 改造社 1934.8.21 331p 16 cm

(注) 布装版による

内容：序 (昇曙夢著 pp.3-5) 曠野 - 或る旅行の話 (pp.9-241) 箱の中の男 (pp.243-277) ウァローヂャ (pp.279-311) 奎扶斯 (pp.313-331)

(談) 「第一回ソヴェート作家大會開かる (文藝)」

讀賣新聞 (朝) 20663 号, 4 (1934.8.21)

* 「宗教の機能」昇直隆著

正教時報 23 卷 9 号, 1-3 (1934.9.1)

(訳) 「檢察官」(『ゴオゴリ全集 3 戯曲集』東京 ナウカ社 1934.9.16

所収 pp.3-205 解説：pp.517-521)

- * 「ゴゴリ熱中時代の思出」
ゴゴリ全集月報 (第四回配本), [1-3] (1934.9)
- * 「[人の子]とは何ぞや」昇直隆著
正教時報 23 卷 10 号, 1-3 (1934.10.1)
- * 「私の好きな言葉」[アンケート]
文藝 2 卷 10 号, 34-35 (1934.10.1)
- * 「十九世紀及び現代の露西亞畫派」(『美術百科全書 西洋篇』東京 新潮社 1934.10.22 所収 pp.437-450)
内容: 古典派時代、浪漫派時代、露西亞繪畫の獨立、移動展派、美術界派、「ダイヤのジャック」一派の出現、革命前後の美術界、各團體の活動、革命時代の版畫と裝畫
- * 「コーガン博士のシェークスピア論」
社會學徒 8 卷 11 号 (92 号), 1-11, 48 (1934.11.1)
内容: 一、シェークスピアとは何人か 二、シェークスピア劇の時代と社會關係 三、時代精神の特徴 四、作品の研究
- * 「宗教復興と知識階級の悲劇」昇直隆著
正教時報 23 卷 11 号, 1-3 (1934.11.1)
- * 『露西亞縱横記』東京 章華社 1934.11.17 401p 函版 4 枚 20 cm
内容: 序 (pp.1-4)、目次 (pp.5-13)、I 風物篇 (pp.15-84)、一 ロシヤ人の生活氣分、二 冬の情趣 (一 北國の冬、二 クリスマス風景、三 新年風俗)、三 雪のシーズン (一 雪の美觀、二 名物トロイカ、三 ペーチカとイズバ)、四 北國の春 (一 春の魅力、二 雪解けの前後、三 野火と放牧、四 復活祭、五 花祭の頃)、五 夏の行樂 (一 野外生活、二 カムロの清境、三 公園の夜、四 別莊地の一、五 シヤンタンの女)、六 白夜の情景 (一 白夜の都、二 幻想と現實の間、三 白夜の逍遙、四 白夜の生んだ藝術)、七 秋の詩趣 (一 秋の自然と氣分、二 晩秋の頃、三 モスクワ郊外の秋、四 墓地巡禮)、II 趣味篇 (pp.85-175)、一 ロシヤ名物 (一 ヴォーツカ、二 サモウル、三 蒸風呂、四 教會堂)、二 鐘と傳説、三 ロシヤの小唄、四 戀と歌のジプシイ、

五 ロシヤ民謡の特質、六 憂鬱の魅力、七 風土と國民性（日本のそれと比較して）、八 國民性と文學、九 文壇人國記、Ⅲ 紀行篇（pp.177-249）、一 シベリヤの美、二 東部シベリヤ紀行（ウラヂヴォストツクの印象、二 ウスリイ沿線の印象、三 ハバロフスクの印象）、三 黒龍江を溯航して、四 ハルビンよりモスクワまで-車窓日記-、Ⅳ 新モスクワの横顔（pp.251-328）、一 ニュープ時代の初期、二 夜のモスクワ、三 ニュープマン、四 過渡期の矛盾、五 レーニン廟と聖母堂、六 コムソモル、七 エシエーニン主義、八 コムソモルカ、九 家庭悲劇、一〇 結婚風俗、一一 新生活と新風習、一二 やもめ村、一三 宣傳列車と宣傳汽船、一四 レフオルト監獄、一五 工場と托兒所、一六 母性の保護、一七 農民の家と労働宮、一八 マルクス・エンゲルス研究學院、一九 國立藝術科學院、二〇 プロレタリア大學生、二一 宗教状態、二二 新宗教運動 V 露都雜記（pp.329-401）、一 トルストイ誕生百年祭に列して、二 劇場としてのモスクワ藝術座、三 モスクヴィンとカチャーロフ、四 ゴーリキイ訪問記、五 レニングラード素描、六 ロシヤに於ける歌舞伎劇評判記

- * 「追悼號に題して- [故イリヤ佐藤秀六神父の] 偉大なる足跡」昇直隆著
 正教時報 23 卷 12 号, 1-2 (1934.12.1)

昭和 10 (1935) 年

- * 「年頭所感」昇直隆著
 正教時報 24 卷 1 号, 1-4 (1935.1.1)
- * 「諸民族のクリスマス傳説」昇直隆著
 正教時報 24 卷 1 号, 8-11 (1935.1.1)
 (注)「旅と傳説」7 年 1 号 (1934.1.1) の再録
- * 「シエストフとその時代 (現代インテリゲンチヤと文學)」
 文藝 3 卷 1 号, 40-46 (1935.1.1)
- * 「宗教藝術に就いて」昇直隆著
 正教時報 24 卷 2 号, 1-3 (1935.2.1)

* 「宗教復興と宗教文學」

社會評論 1卷1号, 58-65 (1935.3.1)

* 「藝術より宗教へ」昇直隆著

正教時報 24卷3号, 1-3, 17 (1935.3.1)

* 「不安の時代と不安の文學」

文藝 3卷3号, 2-15 (1935.3.1)

* 「正教會と改革運動」昇直隆著

正教時報 24卷4号, 1-4 (1935.4.1)

* 「春と復活祭」昇直隆著

正教時報 24卷5号, 1-5, 11 (1935.5.1)

* 「基督教徒の社會的理想」昇直隆著

正教時報 24卷6号, 1-3, 12 (1935.6.1)

内容：一、人間最高の法則 二、神の國とは何ぞや 三、新生活の建設

* 「最近のソヴェート文壇」

月刊ロシヤ 1卷1号, 53-56 (1935.7.1)

* 「公會を迎へて」昇直隆著

正教時報 24卷7号, 1-4 (1935.7.1)

内容：一、非常時の公會 二、中央と地方 三、邦人主教選立問題 四、總務局の職制に就いて

(述) 『藝術社會學』（日本大學藝術科講座 第貳回 藝術編）東京 日本大學出版部 1935.7.8 53p 22cm

内容：第一講 藝術社會學とは何ぞや、第二講 藝術の起源、第三講 藝術の社會的機能、第四講 美術の隆盛と衰頹、第五講 藝術の二つの根本的的典型、第六講 觀念的様式と寫實的様式、第七講 色彩の社會學、第八講 工業資本主義の藝術

* 「宗教禮讚」昇直隆著

正教時報 24卷8号, 1-2 (1935.8.1)

* 「湘南その折々」 正教時報 24卷8号, 14-15 (1935.8.1)

内容：一、夏・海・健康美 二、南國情調

- * 「ロシア文學と日本文壇との關係」〔座談会〕
新潮 32年9号,162-185 (1935.9.1)
出席者：昇曙夢、米川正夫、宇野浩二、廣津和郎、加藤武雄、中山省三郎、中村白葉、木村毅〔司会〕中村武羅夫
- * 「神人と人神の思想」昇直隆著
正教時報 24卷9号,1-6 (1935.9.1)
- * 「道は近きに在り」昇直隆著
正教時報 24卷10号,1-2 (1935.10.1)
- * 『世界文藝大辭典 第一卷』吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社
1935.10.5 684p 27cm
執筆項目（確認できたもののみ）：アクメイズム (pp.61-62)、アフマートヴァ (pp.135-136)、アリョーシャ・ポボヴィイチ (p.212)、アルセーニエフ (p.222) アレクサンドル帝（一世、二世、三世）(p.250)、アレクセイ・ペトロヴィッチ (p.251)、アントーノヴィチ (p.279)、イヴァン雷帝 (p.301)、「醫者の記録」(p.375)、イマジニズム (p.453) ヴァーニカ・カイン (p.526)、ヴェルピーツカヤ (p.605)、ヴェレサーエフ (p.608)、ウスペンスキー (pp.647-648)
- * 「トルストイの體驗」昇直隆著
正教時報 24卷11号,1-5 (1935.11.1)
- (編訳) 『ドストエフスキ再觀（マルクス主義の照明の下に）』東京 ナウカ社 1935.11.11 2,2,297p 19cm (注) 昭和9年版の普及版
標題紙書名：『総合研究ドストエーフスキ再觀』
内容：昭和9年版と同じ。
- (訳) 『虐げられし人々』（世界名作文庫〔第2〕）ドストエーフスキ著 東京 新潮社 1935.11.25 10,504p 20cm
内容：序（昇曙夢 pp.1-2）、解題（pp.3-9）、目次（p.10）、虐げられし人々（pp.1-442）、小英雄（或る未知の記録より）（pp.443-482）、正直な泥棒（pp.483-504）
- * 「聖母禮讚」昇直隆著
正教時報 24卷12号,2-5 (1935.12.1)

（未見）『初等ロシヤ語講座』東京 ナウカ社 1935.10

（注）色々な年譜などに記載されているが不明である。あるいは『初等ロシヤ語講座』（東京 橘書店 1943.8.10）のことか？

（訳）『トルストイとドストエーフスキイ その生涯と藝術』メレジュコフスキイ著 改版 東京 東京堂 1935.12.20 2, 12, 2, 560p 19 cm
（一九〇九年ベトログラード第四版より）

（注）東京堂 1924.10.5 刊 世界名著叢書第7編の改版

内容：改版に序して（昇曙夢 pp.1-2）序（昇曙夢 pp.1-12）目次（pp.1-2）緒論（pp.3-20）第一編 人としてのトルストイとドストエーフスキイ（その生涯）（pp.21-254）第二編 藝術家としてのトルストイとドストエーフスキイ（その藝術）（pp.255-546）あとがき・兩文豪の現代に於ける意義（昇曙夢 pp.547-560）

* 「クズネツオワ夫人の舞台生活」

東京朝日新聞（夕）17849号, 4（1935.12.25）

昭和 11（1936）年

* 「推薦の言葉」（『改造社版プッシキン全集内容見本』1936 所収 p.2）

（注）改造社版プッシキン全集（全5巻 1936.10-1937.2）の刊行予告。

以下、全文を記す。

「バイロンとシェキスピーアとゲーテとを兼ねたやうな世界的大詩人プッシキンの全集が今迄出なかつたのが不思議な位だ。平和と諧調とを基調とし、詩的寫實主義と靈感的地上愛とを特徴とし、靈肉一致を生命とする彼の藝術こそは、覺醒せる意識の微笑であり、凡ての脈管に漲る生々した若い血潮が、生命に感じて躍り躍つてゐる心である。近代ロシア文學が凡ての根を彼に發して彼を父と仰いでゐるのも偶然でない。ト翁に深入りしてもド翁に深入りしても我等は必ず彼等の共通の根元たるプッシキンへ到達する。プッシキンの白い光線が彼等兩文豪に屈折されて虹の七色に分解されたのがロシア文學の本流だ。其の根元的研究は恐らく今回の權威的譯者による權

威的全集を措いては他に求められないであろう。」

- * 「偉大なる二つの誕生」 昇直隆著
 正教時報 25 卷 1 号, 1-3 (1936.1.1)
 内容：一 佛教の誕生、二 新約の誕生
- * 「巨人シャリヤーピン」
 東京朝日新聞 (夕) 17868 号, 4 (1936.1.14)
- * 『世界文藝大辞典 第二巻』吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社
 1936.1.28 612p 27 cm
 執筆項目 (確認できたもののみ) : エヴレイノフ (pp.29-30)、エ
 カテリナ二世 (p.30)、エクステル (p.32)、エゴ・フトゥリーズム
 (p.40)、エリセーエフ (p.90)、エルテリ (pp.93-94)、エルミター
 ジュ (p.96)、演劇年鑑 [ロシア] (p.132)、エンゲリガルト (pp.132-
 133)、オガリョフ (p.153)、オシボヴィッチ (p.168)、オドエーフス
 キー (アレクサンドル) (p.194)、オドエーフスキー (ウラディミル)
 (p.194)、「オブラゾウァーニエ」 (p.206)、「オブローモフ」 (p.207)、
 オボヤズ (p.217)、オムリョーフスキー (p.220)、カサートキン (ニ
 コライ) (p.323)、カテーニン (p.349)、カーメンスキー (アナト
 リー) (p.394)、カーメンスキー (ヴァシリー) (p.394)、カローニン
 (p.424)、キエフ (p.473) キプレンスキー (p.511)、キレーエフス
 キー (イヴァン) (p.597)、キレーエフスキー (ピョートル) (p.597)
- * 「ロシア文學の三體 (宗教文化史的觀點より)」 昇直隆著
 正教時報 25 卷 2 号, 1-4 (1936.2.1)
- * 『露西亞文學概觀』(新潮文庫 第 162 編) 東京 新潮社 1936.2.28
 146p 17 cm
 内容：第一章 古代及び中世時代 (pp.1-20)、第二章 近世啓蒙時代
 (pp.20-27)、第三章 様式探求時代 (pp.27-32)、第四章 寫實主義
 樹立時代 (pp.33-41)、第五章 黎明期と反動期 (四〇年代) (pp.41-
 50)、第六章 大改革時代と虚無主義時代 (六〇年代) (pp.51-62)、第
 七章 民情派時代 (七〇年代) (pp.62-66)、第八章 幻滅時代と田園
 文化没落期 (八〇年代) (pp.67-75)、第九章 ロシア・マルクス主義

時代 (九〇年代) (pp.75-83)、第十章 デカダン象徴派と都會文學 (pp.83-94)、第十一章 革命前期 (pp.94-100)、第十二章 ソヴェート文學 (pp.101-145)、参考書目 (pp.145-146)

- * 「肉と血との神秘」昇直隆著
正教時報 25 卷 3 号, 1-2 (1936.3.1)
- * 「スポーツと健康 (湘南その折々)」
正教時報 25 卷 3 号, 17-18 (1936.3.1)
- * 「人生頌歌」昇直隆著
正教時報 25 卷 4 号, 1-2 (1936.4.1)
(注)「(本篇は曾て「使命」誌上に掲げたことのある舊稿であるが、思ふところありて茲に再録することにした。昇)」と末尾にある。
- * 「南島に傳はる生殖器崇拜の跡」
旅と傳説 9 年 4 号 (100 号), 104-106 (1936.4.1)
- * 「ソ聯反宗教運動の展開」昇直隆著
正教時報 25 卷 5 号, 1-5 (1936.5.1)
- * 「チェーホフより一九一七年の革命まで (ロシア文學史 三)」(『世界文藝大辭典第七卷』東京 中央公論社 1936.5.1 所収 pp.652-674)
内容：第一章 八十年代 (1881-1890)、第二章 九十年代 (1891-1905)、第三章 革命前期 (1905-1917)
- * 「諸家愛好の作家と作品」[アンケート]
世界文藝 (世界文藝大辭典附録) 4 号, 12 (1936.5.1)
- * 「宗教的探究の悲劇」昇直隆著
正教時報 25 卷 6 号, 1-2 (1936.6.1)
- (談) 「温かい大きな農夫” 瀕死の文豪ゴルキーを語る 心打たれた昇曙夢氏」
東京朝日新聞 (朝) 18013 号, 11 (1936.6.8)
- * 「終始民衆の擁護者として一逝けるゴロキイを悼む」
帝國大學新聞 631 号, 7 (1936.6.22)
- * 「公會への希望」 正教時報 25 卷 7 号, 2 (1936.7.1)
- * 「故大主教と日本精神」
正教時報 25 卷 7 号, 2-3 (1936.7.1)

- * 「故大主教の講演『回顧四十五年』[前半]
 - 正教時報 25 卷 7 号, 3-7 (1936.7.1)
 - (注)「使命」に掲載された講演の前半を再録し、末尾に昇曙夢が附記している。
- * 『ゴリキイの生涯と藝術』東京 ナウカ社 1936.7.17 2, [1], 239p 20 cm
 - ゴリキイの肖像あり
 - 内容: 序 (pp.1-2)、目次 (p. [1])、ゴリキイの生涯と藝術 (pp.1-111)、ゴリキイの思想・人物・業績 (pp.113-181)、ゴリキイ訪問記 (pp.183-202)、逸話篇 (pp.203-215)、ゴリキイ語録 (pp.217-221)、ゴリキイと日本文壇 (pp.223-228)、ゴリキイ年譜 (pp.229-239)
- * 「明治初年にロシア語を學んだ人々の話 (座談會)」
 - 月刊ロシア 14 号, 127-133 (1936.8.1)
 - 出席者 (順序不同): 岩澤丙吉、昇曙夢、三井道郎、鈴木要三郎、加藤寛治、上田仙太郎、杉野鋒太郎、宮川船夫、島田元太郎、夏秋龜一、渡邊理恵、山口爲太郎、佐々木静吾、入野寅藏、松田衛、布施勝治、仁科岩二郎、八坂雅二、関根齊一 [進行係: 昇曙夢]
 - (注) 同じ記事が 正教時報 25 卷 8 号 (1936.8.1)、25 卷 9 号, (1936.9.1) に掲載されている。
- * 「ゴリキイの生涯とその作品」
 - 書物展望 6 卷 8 号 (62 号), 2-9 (1936.8.1)
 - (注) 9 頁は写真「文豪の葬儀」、その説明「去る六月十八日モスクワに於いて永眠せる (告別式会場・労働組合會館を出づる) ゴリキイの遺骸。棺を擔ぐはスターリン (向って右) とモロトフ (同左)」
- * 「創業時代のニコライ尊師 (故大主教生前の断片より)」昇直隆著
 - 正教時報 25 卷 8 号, 1-3 (1936.8.1)
- * 「故大主教の講演『回顧四十五年』後半」昇直隆著
 - 正教時報 25 卷 8 号, 3-5 (1936.8.1)
- * 「ニコライ尊師記念祭の記」N・N 生 [昇直隆著]

正教時報 25 卷 8 号, 6-8 (1936.8.1)

- * 「ロシヤ語の沿革を語る夕」[座談会：進行係は昇直隆]

正教時報 25 卷 8 号, 11-13 (1936.8.1)

巻頭から：「我が邦に於けるロシヤ語の沿革を語る主旨の下に、去る五月二十八日午後四時より虎の門晩翠軒に於て、本邦露語學界の長老諸賢の懇談會が開催された。何しろ斯種の會合は最初のことではあり、異常の興味を呼んだ。當日差支のため出席されなかつた方もあるが、大部分は出席された。日本に於けるロシヤ語の沿革といへば故ニコライ大主教は勿論我が正教會とは切つて切れない深い縁故があるから、當夕の座談の要領を本誌に掲ぐることにした。その前に出席者と缺席者の芳名を掲げておく。

[出席] 三井道郎、岩澤丙吉、昇直隆、鈴木要三郎、加藤寛治、島田元太郎、夏秋亀一、渡邊理恵、山口爲太郎、上田仙太郎、杉野鋒太郎、佐々木静吾、入野寅藏、宮川船夫、松田衛、布施勝治、仁科岩二郎、八坂雅二、關根斎一（以上十九名）

[缺席] 瀬沼恪三郎、西海枝静、萩野末吉、矢崎鎮四郎、濱名寛裕、小西増太郎、梅田潔、町田經宇、八杉貞利、河野通久郎、長谷川作次、古澤幸吉、田中耕太郎、平生鈺三郎、太田黒重五郎、片岡裘太郎、田中達三郎、村松愛藏、山内恭治（以上十九名）

- * 「編輯室より」昇直隆著

正教時報 25 卷 8 号, [35] (1936.8.1)

- * 「ゴリキイの印象」文學評論 3 卷 8 号, 118-121 (1936.8.1)

- * 「會つた人だけのゴオリキイ追悼座談會」藤森成吉、湯淺芳子、昇曙夢、宮川船夫、黒田乙吉、馬場秀夫、(司会) 山本實彦

文藝 4 卷 8 号, 336-359 (1936.8.1)

- * 「琉球古典藝術 (文學以前の問題)」

むらさき 3 卷 8 号, 56-59 (1936.8.1)

- * 『世界文藝大辭典 第三卷』吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社
1936.8.17 640p 27 cm

執筆項目(確認できたもののみ)：クインジー (p.2)、クズネツォフ

(パヴェル) (p.11)、クーズミン (pp.11-12)、グネディッチ (p.19)、クープリン (pp.22-23)、クボ・フトウリズム (pp.24-25)、グミリヨフ (p.27)、クラヴチンスキー (p.34)、クラムスコイ (p.52)、クルチョーヌイフ (p.70)、クレムリン (p.84)、「決闘」(p.146)、コーガン (p.212)、「コザック」(p.233)、コジマ・プルトコフ (p.244)、コストロフ (エフィム) (p.254)、コローヴィン (p.332)、ゴロデーツキー (p.333)、コロンタイ (p.335)、ゴンチャロヴァ (p.344)、ゴンチャロフ (p.344)、コンチャローフスキー (pp.344-345)、コンラド (p.353)、ザイツェフ (ボリス) (p.361)、ザウーミ (p.369)、サマーリン (p.399)、サリアース (p.406)、サンボリスム [世界各國に於けるサンボリスムの文藝] [ロシア] (pp.446-447)、詩歌 [四] ヨーロッパ詩歌の特質 [ロシア詩歌の特質] (p.463-464)、シェイクスピア [二] シェイクスピアと世界文學 [シェイクスピアとロシア文學] (pp.480-481)、「虐げられし人々」(p.485)、シェルシェネーヴィッチ (p.494)、シェンゲリ (pp.497-498)、自叙傳 [四] ロシア (p.526)、シチェゴレフ (pp.538-539)、シチエルビーナ (p.539)

(訳) 『どん底・曾て人間であつた人々』(改造文庫 第二部 第二百六十九篇) ゴーリキイ著 東京 改造社 1936.8.20 296p 16 cm

(注) 紙装版による

内容：解題 (昇曙夢著 pp.3-9)、目次 (p.11)、どん底 (pp.13-168)、曾て人間であつた人々 (pp.169-296)

* 「故大主教記念祭事業の遂行－委員会に對する忠言と信徒への希望」昇直隆著 正教時報 25 卷 9 号, 1-4 (1936.9.1)

* 「我が國に於けるロシア語の沿革を語る夕 (前號より續く)」[座談会] 正教時報 25 卷 9 号, 12-16 (1936.9.1)

* 「琉球古典藝能を語る」[座談会] 日本民俗 2 卷 2 号, 6-10 (1936.9.1)

(出席者) 伊波普猷、伊原宇三郎、池田彌三郎、大藤時彦、片山春帆、北野博美、小寺融吉、佐藤惣之助、坂元雪鳥、清水和歌、鹽入龜輔、鈴木太良、高崎正秀、竹内芳太郎、谷川徹三、戸板康二、鳥

居言人、中山晋平、西角井正慶、昇曙夢、波多郁太郎、原田佳明、
比嘉春潮、松本龜松、彌吉三光、折口信夫

- * 「プーシキンとパイロニズム」
改造 18巻10号, 166-176 (1936.10.1)
- * 「先覺者の一人」昇直隆著
正教時報 25巻10号, 1-3 (1936.10.1)
- * 「琉球古典藝能を語る (2)」[座談会] (出席者) 伊波普猷ほか
日本民俗 2巻3号, 33-36 (1936.10.1)
- * 「トルストイ主義の基調」昇直隆著
正教時報 25巻11号, 1-3 (1936.11.1)
- * 「琉球古典藝能を語る (3)」[座談会] (出席者) 伊波普猷ほか
日本民俗 2巻4号, 13-17 (1936.11.1)
- * 『トルストイ十二講』(新潮文庫 第二百七編) 東京 新潮社
1936.11.28 449p 17 cm
(注) 大正6年新潮社刊の文庫化
内容: 序 (pp.1-2)、第一講 その出生より結婚まで (pp.3-36)、第二講 藝術家として、宗教家として (pp.37-68)、第三講 晩年の活動=その死 (pp.69-115)、第四講 トルストイの人及び思想概観 (pp.117-160)、第五講 トルストイの宗教 (pp.161-202)、第六講 社會改良家としてのトルストイ (pp.203-239)、第七講 トルストイの科學論及び藝術論 (pp.241-277)、第八講 トルストイの教育觀及び男女觀 (pp.279-311)、第九講 初期の作品 (pp.313-348)、第十講 『戦争と平和』と『アンナ・カレニナ』 (pp.349-391)、第十一講 晩年の作品 (pp.393-420)、第十二講 通俗物語と戯曲 (pp.421-441)、トルストイ年譜 (pp.442-449)
- * 『世界文藝大辭典 第四卷』吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社
1936.12.5 630p 27 cm
執筆項目(確認できたもののみ): シュクローフスキー (p.16)、スラヴ主義と西歐主義 (pp.286-287)、スリコフ (p.287)、スレプツォフ (p.289)、「ゼムリヤ」(p.338)、セルゲーエフ・ツェーンズ

キー (p.341)、セーロフ (p.344)、ソコロフ・ミキトフ (p.371)、ソ
 ログーブ (ヴラディーミル) (pp.394-395)、ソログーブ (フョード
 ル) (p.395)、タートリン (p.442)、「誰の罪」(p.458)、チェーホニ
 ン (p.479)、チャーダーエフ (p.496)、チャプイギン (p.499)、チュ
 コーフスキー (p.503)、チュルコフ (p.509)、チリコフ (p.527)、ツ
 ヴェターエヴァ (p.534)、テレシヨフ (p.610)

- * 「最近のソ聯宗教事情 (一) (宗教)」
 讀賣新聞 (朝) 21504 号, 5 (1936.12.16)
- * 「最近のソ聯宗教事情 (二) (宗教)」
 讀賣新聞 (朝) 21505 号, 5 (1936.12.17)
- * 「最近のソ聯宗教事情 (三) (宗教)」
 讀賣新聞 (朝) 21506 号, 5 (1936.12.18)
- * 「最近のソ聯宗教事情 (四) (宗教)」
 讀賣新聞 (朝) 21507 号, 5 (1936.12.19)
- * 「最近のソ聯宗教事情 (五・完) (宗教)」
 讀賣新聞 (朝) 21508 号, 5 (1936.12.20)

昭和 12 (1937) 年

- * 「新紀元の前夜」昇直隆著
 正教時報 26 卷 1 号, 1-2 (1937.1.1)
- * 「プーシキンの決闘」月刊ロシヤ 3 卷 2 号, 90-95 (1937.2.1)
- * 「近代の宗教文學」昇直隆著
 正教時報 26 卷 2 号, 1-3 (1937.2.1)
- (訳) 『(新脩普及版) ツルゲーネフ全集 第四卷』東京 六藝社 1937.2.5
 441p 20 cm
 内容: 目次 ([p.1])、父と子 (pp.1-386)、戀の凱歌 (pp.387-426)、
 解題 (pp.427-441)
- (述) 「最近の露西亞事情 (論説)」(寺田榮之丞筆記)
 有終 25 卷 2 号 (279 号), 32-39 (1937.2.5)
- * 「ベルチャーエフの宗教思想」昇直隆著

正教時報 26 卷 3 号, 1-2 (1937.3.1)

(未見) 『新ロシア語講座 (訂正版) 第 3-8 号』 昇曙夢 [ほか] 講述 東京 白揚社 1937.4.12 21 cm

(注) 国立情報学研究所 (NII) の NACSIS Webcat の情報による。

* 「政治運動と宗教運動 (「生ける教會」の正體)」 昇直隆著

正教時報 26 卷 4 号, 1-6 (1937.4.1)

* 「夜半と人生」 昇直隆著

正教時報 26 卷 5 号, 1-3 (1937.5.1)

* 『世界文藝大辭典 第五卷』 吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社

1937.5.17 641p 27 cm

執筆項目 (確認できたもののみ) : トウイニャーノフ (p.22)、ドウイモフ (p.22) ドルジニン (アレクサンドル) (p.112)、トルストイ (レフ) [一] 生涯と其の文學 (pp.113-115)、トルストイ (レフ) [二] トルストイと世界文學 [日本] (pp.116-117)、トルベツコイ (pp.118-119)、トレチャコフ (p.122)、トレチャコフ美術館 (p.122)、「何を爲すべきか」 (pp.159-160)、ナルブート (p.166)、ナレージヌイ (p.166)、ニキーティン (イヴァン・サフヴィッチ) (pp.175-176)、ノヴィコフ (ニコライ) (pp.245-246)、パヴロフ (ニコライ) (p.292)、白ロシア文學 (pp.300-301)、パステルナーク (ボリス) (p.307)、パステルナーク (レオニード) (p.307)、パナーエヴァ (p.325)、パナーエフ (pp.325-326)、バリモント (p.347)、ピーサレフ (アレクサンドル) (p.404)、ピーサレフ (ドミトリー) (p.405)、「人の一生」 (p.416)、ピャティレートカ (p.423)、ピョートル大帝 (p.438)、ビリュエコフ (pp.442-443)、ファヴォールスキー (p.453)、「ブイリーヌイ」 (pp.467-468)、フヴォシチンスカヤ (p.473)、フォルシュ (p.489)、「復活」 (p.519)、ブーニン (pp.534-535)、ブリューソフ (pp.593-594) ブリューロフ (pp.595-596)、プロトポポフ (p.626)

* 「トルストイとドストエーフスキイ」

世界文藝 (世界文藝大辭典附録) 7 号, 5-7 (1937.5.18)

- * 「共産主義と個人主義（宗教的世界観の立場より）」昇直隆著
正教時報 26 卷 6 号, 1-6 (1937.6.1)
- * 「ロシヤ文學と日本文學（日本文學と外国文學）」
文藝懇話会 2 卷 6 号, 6-9 (1937.6.1)
- * 「奄美大島の祭禮と能呂の勢力」（伊波先生記念論文集編纂委員会編
『南島論叢』那覇 沖縄日報社 1937.7.1 所収 pp.80-94)
- * 「共産主義と個人主義（宗教的世界観の立場より）（續・完）」昇直隆著
正教時報 26 卷 7 号, 2-7 (1937.7.1)
- (訳) 『父と子』（改造文庫 第二部 第二百七十九篇）ツルゲーネフ著
東京 改造社 1937.7.19 337p 16 cm
(注) 紙装版による
内容：解題（昇曙夢著 pp.3-10）、父と子（pp.11-337）
- * 「赤軍銃殺事件を何う見る？（赤軍銃殺事件寸感集）」[アンケート]
月刊ロシア 3 卷 8 号 (26 号), 64-65 (1937.8.1)
- * 「三つの眞理」昇直隆著
正教時報 26 卷 8 号, 2-4 (1937.8.1)
- * 「病床日記（一）」昇須美子遺稿
正教時報 26 卷 8 号, 9-14 (1937.8.1)
(注) 冒頭に昇直隆の注記あり。亡くなった娘さんの遺稿であるが採録しておく。
- (未見) (訳) 『復活（上）』（新潮文庫）レフ・トルストイ著 東京 新潮社
1937.8.7 394p
内容：解説（昇曙夢著）
(注) 『新潮社一〇〇年図書総目録』（1996.10.10）p.202 の記載による。
- (未見) (訳) 『復活（下）』（新潮文庫）レフ・トルストイ著 東京 新潮社
1937.8.7 399p
(注) 『新潮社一〇〇年図書総目録』（1996.10.10）p.202 の記載による。
- * 「文化統制の趨勢」昇直隆著
正教時報 26 卷 9 号, 1-4 (1937.9.1)
- * 「病床日記（二）」昇須美子遺稿

正教時報 26 卷 9 号, 13-18 (1937.9.1)

- * 「ロシアの作家とその郷土色 (今日のソヴェート文學界)」
月刊ロシア 3 卷 10 号 (28 号), 123-130(1937.10.1)
内容: ゴンチャロフ、ツルゲーネフ、ゴーゴリ、ドストエーフスキイ、トルストイ
- * 「ソヴェート聯邦の新段階」昇直隆著
正教時報 26 卷 10 号, 1-3 (1937.10.1)
- * 「病床日記 (三)」昇須美子遺稿
正教時報 26 卷 10 号, 15-20 (1937.10.1)
- * 「大島印象記 (一) 名瀬の横顔」
南島 1 卷 1 号, 4-8 (1937.10.1)
(注) 「昇曙夢年譜」(pp.7-8) あり
- * 『謎のロシア=新舊ロシアの全貌』東京 大東出版社 1937.10.7 4.
12, 337p 20 cm
内容: 序 (pp.1-4)、目次 (pp.1-12)、一、文明史上の畸形兒 (pp.1-36) (1) 二つの心 (2) ビザンチンの影響 (3) ダツタン族の支配 (4) モスクワ侯國の勃興 (5) 國運の進展 (6) ロマノフ家の發祥 (7) ポーランド文化の侵入 (8) 近代ロシアの建設 (9) 大帝以後の改革 (10) 獨佛文化の輸入 (11) 文明史上の孤兒 (12) 近代思潮の黎明期 (13) ロシア人と西歐人 (14) 國民性の特徴 (15) 自然的原因と歴史的原因 (16) 世界人文の寶庫 (17) 自由の曙光 二、ロマノフ王朝没落の悲劇 (pp.37-90) (1) 國體の矛盾 (2) 運命の悲劇 (3) 不吉の兆 (4) 廢帝の性格 (5) 若きヘツセンの姫君 (6) 皇太后の陰謀 (7) 皇后の不安 (8) 廢帝の愛妾 (9) 怪僧ラスプーチンの出現 (10) 皇室と怪僧 (11) 怪僧殺害當夜の光景 (12) 皇后の反逆行爲 (13) 偽エカテリナ二世 (14) 皇帝退位の刹那 (15) 廢帝一族の監禁 (16) シベリア配流 (17) エカテリンブルグの最期 三、ロシア國民性の解剖 (pp.91-123) (1) 二元の國 (2) 極端から極端へ (3) 矛盾の性格 (4) ヨーロッパ的性情とアジア的性情 (5) ルーゼン型とピョートル型 (6) 實際主義とその典型的性格 (7) ロシア史

の特色 (8) 野獸性と人間性 (9) 「トスカ」と憂鬱性 (10) 現實主義と神祕主義 (11) 「餘計者」のタイプ (12) 獨創力と同化力 (13) ロシア人の享樂性 (14) 「ニチエヴォ」主義 (15) 宗教的熱情

四、民俗風習の特異性 (pp.125-149) (1) 雪の曠野とトロイカ (2) クリスマスと戀の花 (3) 正月の極彩模様 (4) 目隠し接吻と占い (5) 春の復活祭 (6) 「花には匂ひ人にはキス」 (7) 夏の屋外生活 (8) 白夜の魅惑 (9) プーシキンと秋 (10) ペーチカのロシア的性格 (11) ロシア人とウオーッカ (12) 歌ふサモワル (13) 蒸風呂の味

五、革命前奏曲 (pp.151-166) (1) 知識階級の不安時代 (2) 日露戦争前後 (3) 革命の失敗と反動 (4) デカダンと性慾小説の氾濫 (5) 宗教への逃避

六、過渡期のソヴェート社會相 (pp.167-214) (1) 過渡期の矛盾 (2) 新生活と赤い儀禮 (3) やもめ村と「擁抱會」 (4) 「父と子」の争ひ (5) 新しい夫婦生活 (6) 浮浪兒と性病患者 (7) 共産青年同盟 (コムソボル) (8) 共産少年團 (ピオネル) (9) 頽廢氣分と厭世自殺 (10) 婦人は如何に解放されたか (11) 「婦人國有」の真相 (12) ソヴェート型女性 (13) 育兒の集團化と厨房工場 (14) 「農民の家」と「勞働宮」

七、明暗モスクワ新風景 (pp.215-238) (1) 生活享樂の解禁 (2) ヨールカの復活 (3) 動く新年風景 (4) 「文化公園」と「夏の園」 (5) お祭り騒ぎのメーデー (6) 「レストラン・スポーツ」 (7) 「スタハーノフツイ」の豪勢 (8) スターリンの「人間製造」 (9) 愛國熱と英雄崇拜熱 (10) 準戰時體制下の藝術界

八、五ヶ年計畫下の社會情勢 (pp.239-251) (1) 五ヶ年計畫とは? (2) 社會主義化政策の社會的意義 (3) 農村の動搖と富農の運命 (4) 黨方針の歪曲 (5) 能率増進と勞働規律 (6) 文化状態と生活改善 (7) 第二次五ヶ年計畫の成果

九、宗教弾壓を繞つて (pp.253-270) (1) 共産黨とギリシヤ正教會 (2) 宗教戰の展開 (3) 「生ける教會」の出現 (4) 宗教撲滅五ヶ年計畫 (5) 戰闘的無神論者同盟 (6) 無神同盟の宗教攻撃 (7) 最近の宗教對策の異變

一〇、恐怖政治の裏面 (pp.271-289) (1) チエカ時代 (2) ゲ・ベ・ウの組織 (3) 直接裁判の恐怖 (4) 強制訊問と陷穽 (5) ソロフカ監獄の戰慄 (6) 戦々兢々

たる民衆 (7) 學者専門家に對する彈壓 (8) 三度目の改組と權限の強化 一一、反革命陰謀物語 (pp.291-320) (1) 「基督と劍と革命の同盟」 (2) ウクライナの反革運動 (3) 産業黨の五ヶ年計畫妨害 (4) 反スターリン派の背景 (5) キーロフ暗殺 (6) 合同本部事件 (7) 並行本部事件 (8) 八將星の銃殺 (9) 反革陰謀の根本原因 一二、問題のソ聯兩巨頭論 - スターリンとトゥロツキー - (pp.321-337) (1) 性格上の對立 (2) 自己陶醉者 (3) 紙芝居の闘士とギャング的性格 (4) 共通の殘忍性 (5) 東方的支配者 (6) 空想家と實踐家 (7) 世界革命論と一國社會主義說 (8) 「ヨーロッパを寄越せ！」 (9) ロシヤのロベスピエール

* 「支那事變と銃後の義務」 昇直隆著

正教時報 26 卷 11 号, 1-2 (1937.11.1)

* 「病床日記 (四)」 昇須美子遺稿

正教時報 26 卷 11 号, 13-18 (1937.11.1)

* 『世界文藝大辭典 第六卷』 吉江喬松責任編輯 東京 中央公論社

1937.11.5 713p 27 cm

執筆項目 (確認できたもののみ) : 文章 [二] 各國文章の特質 [ロシア文] (pp.37-38)、ペテルブルグ (p.73)、ペトロフ (ヴェシリー) (p.77)、ボゴストロイ・テリスタヴォ (p.143)、ボブローフ (p.168)、ボベドノスツェフ (p.168)、マルケーヴィッチ (p.253)、マンデリシユターム (オシブ) (p.264)、ミハイロフスキー (ニコライ) (p.285)、メージョフ (p.333)、モスクヴァ (p.359)、モスクヴァ大學 (p.360)、ヤシンスキー (p.395)、ヤズイコフ (ニコライ) (p.395)、「ヤーマ」 (p.399)、「闇の力」 (p.405)、唯美主義文藝 [五] ロシアに於ける唯美主義 (pp.411-412)、ユダヤ [五] 近代ユダヤ人文藝 [ロシア] (p.422)、ラザレフ (p.470)、リアリズム [三] リアリズムの文學 [ロシア] (p.505)、リットフロント (p.528)、リトヴァコフ (p.532)、「ルースカヤ・ムイスリ」 (p.572)、「ルースキー・ヴェーストニク」 (p.572)、「ルースコエ・スローヴォ」 (p.572)「ルースコエ・ボガートストヴォ」 (p.572)、ルナチャルスキー (p.577-578)、

ルンドベルグ (p.592)、レーニングラード (p.617)、レーミゾフ (pp.619-620)、ロシア [一] ロシアの文化 (pp.639-640)、[四] ロシアの宗教 (p.640)、[八] ロシア文學と外国文學との交渉 [ギリシャ・ローマ文學とロシア文學との交渉] (pp.643-644)、[九] ロシア文學研究 [ロシア] (pp.646-648)、[一二] ロシアの美術 (pp.650-651)、ロードフ (p.662)、ロマシヨーフ (p.680)

* 「人間性と野獣性」昇直隆著

正教時報 26 卷 12 号, 1-2 (1937.12.1)

* 「トルストイの「日記」を読む (湘南その折々)」

正教時報 26 卷 12 号, 12-14 (1937.12.1)

* 「病床日記 (完)」昇須美子遺稿

正教時報 26 卷 12 号, 23-26 (1937.12.1)

(注) 末尾に昇直隆の「終りに一言」あり。

* 『ソヴェト藝術の二十年』東京 大東出版社 1937.12.12 4, 7, 467p

図版 20 cm

内容：序 (pp.1-4)、目次 (pp.1-7)、演劇篇 一、革命初期の演劇活動 (pp.3-16) 二、舞臺装置の革命 (pp.17-29) 三、復興期に於ける演劇革命の過程 (pp.30-45) 四、プロレタリア演劇運動 (pp.46-90) 五、メイエルフォリドの業績 (pp.91-106) 六、メイエルフォリドの記録的演出 (pp.107-120) 七、タイロフの新寫實主義 (pp.121-129) 八、立體派の舞臺美術 (pp.130-150) 九、構成派の舞臺装置 (pp.151-161) 十、ソヴェト戯曲の發展 (pp.162-175) 十一、ネッブ時代末期の劇壇 (pp.176-185) 十二、再建期の劇壇と戯曲 (pp.186-194) 映畫篇 一、初期ソヴェト映畫の發達 (pp.197-234) 二、ソヴェト映畫の新紀元 (pp.235-240) 三、三大監督の映畫美學 (pp.241-258) 四、發聲映畫と文藝映畫 (pp.259-269) 五、最近のソヴェト映畫 (pp.270-281) 六、ソヴェト映畫の指導精神 (pp.282-296) 美術篇 一、ソヴェト美術の發展段階 (pp.299-302) 二、革命直後の美術界 (pp.303-313) 三、復興期の美術界 (pp.314-325) 四、新工藝美術の發達 (pp.326-338) 五、再建期のソヴェト美

術（pp.339-348）六、最近の繪畫と彫刻（pp.349-357）七、特色的なポスターと漫畫（pp.358-362）音楽・舞踊篇 一、初期ソヴェート音楽の發達（pp.365-378）二、最近のソヴェート音楽界（pp.379-386）三、革命後の新興舞踊（pp.387-397）四、舞踊劇の新しい収穫（pp.398-403）文學篇 一、戦時共産主義時代（pp.407 - 413）二、復興期のソヴェート文學（pp.414-445）三、再建期のソヴェート文學（pp.446-461）四、社會主義的リアリズム（pp.462-467）

昭和13（1938）年

- * 「ロシア民族の特性とソ聯邦の教育方針（國民精神總動員と教育）」
教育研究 476号, 70-75 (1938.1.1)
- * 「光は東方より」 正教時報 27卷1号, 3 (1938.1.1)
- * 「戦争と國家と基督教」昇直隆著
正教時報 27卷1号, 11-17 (1938.1.1)
(注) 末尾に「(ソロヴィヨフの説に據る)」とあり。
- * 「準戦時體制下のソ聯教育事情（現國際情勢下の教育）」
帝國教育 711号, 51-59 (1938.1.1)
- * 「最近ソ聯に於ける宗教熱の勃興（宗教）」
讀賣新聞（夕）21897号, 4 (1938.1.16)
- (訳) 『決闘』（新潮文庫 第二百七十編）クープリン著 東京 新潮社
1938.1.17 377p 17cm
内容：解説（pp.1-6）、決闘（pp.7-377）
- * 「故大主教の偉業とその文化史的意義」昇直隆著
正教時報 27卷2号, 1-4 (1938.2.1)
- * 「故森田神父と四谷教會」昇直隆著
正教時報 27卷3号, 3-5 (1938.3.1)
- * 「事變の認識」昇直隆著
正教時報 27卷4号, 1-2 (1938.4.1)
- * 「ソ聯の宗教復興（湘南その折々）」
正教時報 27卷4号, 13-14 (1938.4.1)

- * 「普遍的生命」 昇直隆著
正教時報 27 卷 5 号, 3-6 (1938.5.1)
- * 「戦争と文学についての一考察 (湘南その折々)」
正教時報 27 卷 5 号, 27-31 (1938.5.1)
- * 「ソ聯は何処へ行く」 昇直隆著
正教時報 27 卷 6 号, 3-4 (1938.6.1)
- * 「日本勃興の豫言 (ソロヴィヨフの「アンチ・クリスト」物語を読む)」
正教時報 27 卷 6 号, 16-18 (1938.6.1)
- * 「琉球古典藝術の印象」
南島 2 卷 8 号, 7-9 (1938.6.25)
- * 「最近のソヴェート文学に就いて」
書物展望 8 卷 7 号 (85 号), 70-74 (1938.7.1)
- * 「戦争・平和・文明」 昇直隆著
正教時報 27 卷 7 号, 3-7 (1938.7.1)
- (未見) (訳) 『虐げられし人々 (上・下巻)』 (新潮文庫 第 304, 305 編) ドストエーフスキイ著 東京 新潮社 1938.7.5 2 冊 17 cm
上巻 (310p 解説・昇曙夢)、下巻 (348p)
(注) 国立国会図書館の所蔵データ及び『新潮社一〇〇年図書総目録』 p.207 の記載による。
- * 「所謂猶太人の陰謀に就て」 昇直隆著
正教時報 27 卷 8 号, 3-8 (1938.8.1)
- * 「ロシアの民族性と教育方針」 昇直隆著
正教時報 27 卷 9 号, 2-10 (1938.9.1)
- * 「科学と人生」 昇直隆著
正教時報 27 卷 10 号, 1-2 (1938.10.1)
- * 「希伯来文学研究序説 (一)」
正教時報 27 卷 10 号, 15-17 (1938.10.1)
内容：一 はしがき、二 舊約詩書の分類、三 希伯来詩の特質、
四 希伯来詩の形式
- * 『明暗ソ聯の全貌』 東京 育生社 1938.10.5 17, 279p 図版 20 cm

附録：ソヴェート國民經濟讀本

内容：序（pp.1-3）、目次（pp.5-17）、一、肅清工作とその影響（pp.1-11）、二、暴露された陰謀の真相（pp.13-26）、三、肅清の蔭に躍るスパイ群（pp.27-52）、四、準戦時體制下の國民訓練（pp.53-68）、五、鎖國主義と愛國主義運動（pp.69-78）、六、ソ聯民衆生活の種々相（pp.79-102）、七、國防文學と國策映畫の氾濫（pp.103-116）、八、民族性とソ聯の教育（pp.117-136）、九、移る宗教對策（pp.137-147）、一〇、赤軍今昔物語—スターリン出世功名譚（pp.149-164）、一一、赤軍二人男（一）ヴォロシーロフ元帥の横顔（pp.165-173）、（二）ブリュツヘル元帥の横顔（pp.174-179）、一二、極地征服の偉業（一）ソ聯機の北極横斷（pp.181-193）、（二）漂流する北極探検隊（pp.195-208）

附録：ソヴェート國民經濟讀本 一、國土・資源・住民（pp.211-213）、二、帝政時代と比較して（pp.214-219）、三、ソヴェート經濟建設の發展（pp.220-249）、四、農業集團化の進展（pp.250-268）、五、文化建設と科學の發達（pp.269-279）

* 「來世觀と道德」昇直隆著

正教時報 27 卷 11 号, 1-3 (1938.11.1)

* 「希伯來文學研究序説（二）」

正教時報 27 卷 11 号, 14-18 (1938.11.1)

内容：五 希伯來詩の並行體、六 並行體の定義と識別法、七 對句の種類

* 「生と死」昇直隆著 正教時報 27 卷 12 号, 1-2 (1938.12.1)

* 「希伯來文學研究序説（三）」

正教時報 27 卷 12 号, 8-11 (1938.12.1)

内容：七 對句の複雑化、八 詩形の多様性、九 對句研究の利益、十 預言的文體

* 「教育時言」

南島 2 卷 13 号, 1-2 (1938.12.25)

昭和 14 (1939) 年

- * 「藝術に於ける聖母禮讚」昇直隆著
正教時報 28 卷 1 号, 3-5 (1939.1.1)
- * 「救贖と自由」昇直隆著
正教時報 28 卷 2 号, 1-7 (1939.2.1)
- * 「歴史發展の眞意義」昇直隆著
正教時報 28 卷 3 号, 1-4, 9 (1939.3.1)
- (訳) 『奈翁モスクワ敗退記』エ・タルレ著 東京 育生社 1939.3.10 3, 7,
272p 函版 20 cm 附・大ト翁「祖国戦争史詩」
内容：序 (昇曙夢著 pp.1-3)、目次 (pp.1-7)、一、ポロヂノ激戦
(pp.3-28)、二、露軍の總退却 (pp.29-44)、三、モスクワ總督の挿
話 (pp.45-61)、四、佛軍のモスクワ入城 (pp.63-71)、五、モスクワ
の大火 (pp.73-91)、六、ペテルブルクの狼狽 (pp.93-103)、七、ロ
シア農民の奮起 (pp.105-111)、八、不安焦燥のナポレオン (pp.113-
130)、九、平和の折衝 (pp.131-141)、一〇、佛軍のモスクワ退却
一一、パルチザン遊撃戦の展開 (pp.157-175)、一二、退却軍の運命
(pp.177-181)
附録 祖国戦争史詩—トルストイ作『戦争と平和』より、一、ク
トゥゾフ元帥の本營にて (pp.185-189)、二、ポロヂノ激戦 (pp.190-
198)、三、フィリー會議 (pp.199-206)、四、ナポレオン軍のモスク
ワ入城 (pp.207-214)、五、モスクワの火災と掠奪 (pp.215-225)、
六、ナポレオン軍のモスクワ退却 (pp.226-230)、七、ナポレオン軍
の逃走 (pp.231-237)、八、パルチザン戦 (pp.238-267)、九、佛軍撤
退後のモスクワ (pp.268-272)
- * 「ロシア文藝批評史概論」(『ロシア文化の研究 八杉先生還暦記念論文
集』米川正夫、馬場哲哉、除村吉太郎編 東京 岩波書店 1939.3.25
所収 pp.117-143)
- * 「古典的祭禮」昇直隆著
正教時報 28 卷 4 号, 3-5 (1939.4.1)
- * 「三井師叙聖四十五年 その偉大なる業績と風格」昇直隆著

- 正教時報 28 卷 5 号, 1-3 (1939.5.1)
- * 「おらんだ・べるぎいの旅 (妹達への通信)」 故昇須美子遺稿
正教時報 28 卷 5 号, 25-28 (1939.5.1)
- * 「婦人教役者の出現を望む」 昇直隆著
正教時報 28 卷 6 号, 2-4 (1939.6.1)
- * 「ソ聯の宗教政策と正教會」 昇直隆著
正教時報 28 卷 6 号, 5-11 (1939.6.1)
- * 「公會への希望」 昇直隆著
正教時報 28 卷 7 号, 1-4 (1939.7.1)
- * 「ソ聯の宗教政策と正教會 (續)」 昇直隆著
正教時報 28 卷 7 号, 8-13 (1939.7.1)
- * 「新東亞建設の意義」 昇直隆著
正教時報 28 卷 8 号, 1-2 (1939.8.1)
- * 「ソ聯の反宗教長期戦 (ソ聯の宗教團體法規に就いて)」 昇直隆著
正教時報 28 卷 9 号, 1-4 (1939.9.1)
- * 「昇先生還暦記念出版に就いて」 山内封介著 [であるが採録しておく。]
正教時報 28 卷 9 号, 8-9 (1939.9.1)
- (訳) 『六人集と毒の園 附 文壇諸家感想録』 東京 正教時報社 1939.9.10
614p 肖像 20 cm 背のタイトル:『還暦記念 六人集と毒の園』
(注) 昇曙夢先生還暦記念として、明治 43 年刊『六人集』、明治 45
年刊『毒の園』を一冊にまとめ刊行したもの。
内容: 序 (昇曙夢先生還暦記念刊行會代表 山内封介 pp.1-4) 昇
曙夢年譜 (pp.5-12) 總目次 (pp.13-16) 露西亞現代代表的作家 六
人集 (易風社蔵版) (pp.17-271) 序文 (エリセーエフ pp.19-28) 自
序 (昇曙夢 pp.29-31) 夜の叫び (バリモント pp.33-56) 靜かな曙
(ザイツェフ pp.57-79) 閑人 (クープリン pp.81-109) かくれんぼ
(ソログーブ pp.111-137) 妻 (アルツイバーシェフ pp.139-184)
霧 (アンドレーエフ pp.185-271) 露国新作家集 毒の園 (pp.273-
517) 毒の園 (フョードル・ソログーブ pp.275-314) 地下室 (レオ
ニード・アンドレーエフ pp.315-338) 夜 (ミハイル・アルツイバー

シェフ pp.339-364) 白夜 (アナトリー・カアメンスキー pp.365-397) 三奇人 (アレキセイ・トルストイ pp.399-425) 嫉妬 (コンスタンチン・バリモント pp.427-449) 生活の河 (アレキサンドル・クープリン pp.451-494) 死 (ボリス・ザイツェフ pp.495-517) 文壇諸家感想録 (pp.519-610) 俳句 (小杉天外 p.520) 和歌 (内山英保 p.520) 昇曙夢氏の翻譯文學禮讚 (吉江喬松 pp.521-522) 最初の感激と興奮 (中村武羅夫 pp.522-524) 昇先生への感謝 (加藤武雄 pp.524-526) 青年期の憧憬的 (廣津和郎 pp.527-529) 永遠に新しい『六人集』と『毒の園』 (宇野浩二 pp.529-534) 僕達を文學者にした二つの集 (三上於菟吉 pp.535-536) 文學の教科書 (谷崎精二 p.536) 思ひ出深い愛讀書 (豊島與志雄 pp.537-538) 昇さんの仕事 (曙夢時代の好記念) (武者小路實篤 pp.538-539) 懐しき作家群 (里見弴 pp.540-541) 新時代への贈物 (米川正夫 pp.542-543) 永久に残る香り高い名譯 (原久一郎 pp.544-546) 意味深いお企て (相馬御風 pp.546-548) 懐しい早稻田時代の思ひ出 (吉田絃二郎 pp.549-550) 芳烈なる新鮮味 (山崎斌 pp.550-552) 二葉亭を嗣ぐ者 (中村星湖 pp.552-556) 昇曙夢と上田敏 (楠山正雄 pp.556-558) 懐しい思ひ出の標識 (前田晁 pp.558-559) 古典を新たに翫賞する氣持 (正宗白鳥 p.560) 舊知にめぐり会ふ懐かしさ (中村吉蔵 pp.560-562) 傑れた歴史的存在 (土岐善麿 pp.562-563) 唯一無類の業績 (本間久雄 pp.563-565) ロシヤ文學を日本人の常食にした恩人 (木村毅 pp.565-566) 兩翻譯集の古典的意義 (中村白葉 pp.566-567) ロシヤ近代古典の再吟味 (秋田雨雀 pp.567-569) 再刊「六人集」の魅力 (川路柳虹 pp.569-571) 胸の血の熱するを覚ゆ (小川未明 pp.572-574) 露西亞文化紹介の恩人 (八杉貞利 pp.574-575) わが新興文學への貢獻 (長谷川誠也 pp.575-577) 多大なる功勞の再認識 (馬場孤蝶 pp.577-578) ロシヤ文學の大元老 (相馬黒光 pp.579-580) 先生に蒙った恩 (湯淺芳子 pp.581-582) あの頃の面影 (嵯峨の家老翁 pp.582-583) 學生時代の昇君を語る (青木精一 pp.584-586) 假病の天才 (佐藤萍亭 pp.586-589) 餘香 (人とし

て・先生として) (高野孤龍 pp.589-592) 昇先生の逸話と秘藝 (山内封介 pp.592-595) 昇先生とロシヤ (中山貞雄 pp.595-597) 初対面の思ひ出 (黒田乙吉 pp.598-601) 若い還暦 (印象と追懐) (袋一平 pp.602-605) 郷土研究家としての一面 (上村清延 pp.605-608) 「新潮」座談會 (昭和十年九月号) (「ロシヤ文學と日本文壇との關係」の中より) (pp.608-610) あとがき (昇曙夢 pp.611-614)

* 「ソ聯の文化政策」 昇直隆著

正教時報 28 卷 10 号, 1-7 (1939.10.1)

* 「讀書の感激と思出」 東京堂月報 26 卷 10 号, 4-5 (1939.10.15)

* 「創作的な翻譯 (翻訳の窓)」

帝國大學新聞 784 号, 7 (1939.10.30)

* 「西海枝先生の永眠を悼む」 昇直隆著

正教時報 28 卷 11 号, 1-4 (1939.11.1)

* 「ソロヴィヨフの靈的進化論」 昇直隆著

正教時報 28 卷 12 号, 2-7 (1939.12.1)

昭和 15 (1940) 年

* 「G・P・U 秘話 (隨筆)」

文藝春秋 18 卷 6 号, 19-22 (1940.4.1)

(訳) 「檢察官」 (『ゴオゴリ全集 3 戯曲集』 東京 ゴオゴリ全集刊行会 1940.5.5 所収 pp.3-205、解説 pp.517-521)

* 『ゴリキイの生涯と藝術』 東京 青樹社 1940.7.20 2, [1], 239p 図版 19 cm ゴーリキイの肖像あり 背のタイトル: ゴーリキイの生涯と藝術

内容: 序 (pp.1-2)、目次 (p. [1])、ゴーリキイの生涯と藝術 (pp.1-111)、ゴーリキイの思想・人物・業績 (113-181)、ゴーリキイ訪問記 (pp.183-202)、逸話篇 (pp.203-215)、ゴーリキイ語録 (pp.217-221)、ゴーリキイと日本文壇 (pp.223-228)、ゴーリキイ年譜 (pp.229-239)

(訳) 『近世猶太民族史 第三卷 第二反動時代 (1881-1914 年)』 シモン・ドゥブノフ著 南滿洲鐵道株式會社調査部編 大連 南滿洲鐵道

1940.8.10 1, 2, 4, 504p 23 cm

(注) 出版年月日は奥付による。表紙、標題紙、例言には昭和十四年十一月との記載がある。

「一、本書は、シモン・ドゥブノフ著「最近猶太民族史」の第三巻目（1787-1914年）を獨語版（Simon M.Dubnow, Die neueste Geschichte des juedischen Volkes 1889-1914. III Bd. Berlin, 1923）より全譯したものである。（中略）一、本書の翻譯は之を外部に委嘱し、當班員仁木伝之助之れが校閲を擔當した。」（例言より）

(注) 『ロシヤ・ソヴェト文學史』（河出書房 1955年9月）の「著者年譜」昭和十七年六月の項に「南滿洲鐵道株式会社調査部の依頼により、ドゥブノフ著「近世猶太民族史」全三巻を翻譯出版。」とある。なお、第一巻の刊行年月日は昭和十七年六月五日、第二巻は昭和十七年九月八日（奥付にて確認）、詳細は上記年月の項で確認されたい。

* 「日本正教會の獨立と改革」昇直隆著

正教時報 29巻9号, 1-7 (1940.9.1)

(訳) 「かくれんぼ」ソログープ [著] (矢崎彈編並解説『賢者の妻－世界結婚小説集 1』(世界文學名作撰) 東京 鱒書房 1940.10.19 所収 pp.117-138)

(訳) 「戀の凱歌」ツルゲエネフ [著] (矢崎彈編並解説『夕暮れの對話－世界青春小説集 1』(世界文學名作撰) 東京 鱒書房 1940.10.19 所収 pp.17-48)

昭和 16 (1941) 年

* 「ロシヤ文學移植の沿革」

學鏡 45巻1号, 15-19 (1941.1.20)

* 「尾瀬敬止著『ロシヤ及ロシヤ人』」

日本學藝新聞 105号, 7 (1941.3.25)

* 「“大トルストイ傳” ビリユーコフ著 原久一郎譯 (文化書評)」

讀賣新聞 (朝) 23066号, 5 (1941.4.9)

- * 「ユダヤの女」 改造 23 卷 10 号, 257-263 (1941.5.2)
- * 「讀書の感激と思出（文學と讀書 二）」（二荒伸編『讀書と教養』東京
ふたら書房 1941.5.15 所収 pp.164-169)
- * 「最近のソ聯文化」 ラヂオ講演講座 130 輯, 6-11 (1941.7.1)
- * 「獨ソ戰とソ聯の宗教事情（上）（文化）」
讀賣新聞（夕）23185 号, 3 (1941.8.6)
- * 「獨ソ戰とソ聯の宗教事情（下）（文化）」
讀賣新聞（夕）23186 号, 3 (1941.8.7)
- * 「文化・學術の府 レニングラードの印象（1）（學藝・科學）」
朝日新聞（朝）19901 号, 3 (1941.8.23)
- * 「古典的な相貌 レニングラードの印象（2）（學藝・科學）」
朝日新聞（朝）19902 号, 3 (1941.8.24)
- * 「文學・育ての親 レニングラードの印象（3・完）（學藝・科學）」
朝日新聞（朝）19903 号, 3 (1941.8.25)
- * 「動員されるソ聯の文化」
改造 23 卷 18 号, 236-243 (1941.9.2)
- * 「ウクライナの文化を探る・風景・風俗・氣質（文化特輯）」
讀賣新聞（夕）23235 号, 3 (1941.9.25)
- * 「昔の學生今の學生」科學ペン 6 卷 10 号, 110-111 (1941.10.1)
- * 「モスクワのナポレオン」
中央公論 56 年 12 号, 217-227 (1941.12.1)
- * 「パルチザン物語」 改造 23 卷 24 号, 152-160 (1941.12.7)

昭和 17 (1942) 年

（訳編）『落下傘讀本』ソ聯邦民間航空本部、ソ聯邦國防飛行化學協會共編 東
京 東京堂 1942.5.10 8, 10, 365p 22 cm

内容：序（昇曙夢 pp.1-4）、本書の價値と特質（N. エヴドキモフ著
pp.5-8）、目次（pp.1-10）、前篇 第一章 落下傘の歴史（pp.3-23）、
第二章 ソ聯邦の落下傘（pp.24-46）、第三章 現代の落下傘（pp.47-
64）、第四章 各國著名落下傘の特質（pp.65-84）、第五章 旅客用落

下傘 (pp.85-91)、第六章 物料落下傘 (pp.92-96)、第七章 併用訓練落下傘 (P-T-1) (pp.97-113)、第八章 スポーツ訓練降下 (pp.114-140)、第九章 各種航空機よりする降下の特質 (pp.141-145) 第十章 実験的降下に就いて (pp.146-173)、後篇 第一章 落下傘スポーツの理論的問題 (pp.177-194)、第二章 高等操縦・降下法訓練要綱 (pp.195-285)、第三章 落下傘隊の戦時訓練要綱 (pp.286-304)、第四章 醫學的觀點より (pp.305-314)、第五章 落下傘の収納法 (pp.315-339)、第六章 落下傘の保存と修繕 (pp.340-348)、第七章 パラシューターの地上訓練用器械 (pp.349-359)、附録一 落下傘降下専用機の構造上の變更 (pp.361-362)、附録二 飛行場に降下標識を設けること (pp.362-363)、附録三 落下傘教室の典型的裝備 (pp.363-365)

(訳) 『近世猶太民族史 第一巻 第一次解放時代 (1789-1815年)』ドゥブノフ著 南滿洲鐵道株式會社調査部編 大連 南滿洲鐵道 1942.6.5
1, 2, 4, 340p 21 cm

(注) 出版年月日は奥付による。表紙、例言には昭和十七年一月との記載がある。

「一、本書は、一九三七年リガ發行のシモン・ドゥブノフ著「猶太民族最近世史」改訂増補、露語版第一巻 (С.М.Дубнов: Новейшая История Еврейского Народа, том 1. Рига, 1937) より全譯したものである。當班は曩に一九二三年伯林發行の獨語版により同一原書の第三巻を翻譯刊行したのであるが、本第一巻及び續いて刊行さるべき第二巻は都合により露語原著に據ることゝした。併しこのことは何ら本書の内容の一貫性を損なふものでないことは勿論である。(中略) 一、本書第一巻の翻譯は部外に委嘱し、當班に於て校閲を擔當した。」(例言より)

(注) 『ロシヤ・ソヴェト文學史』(河出書房 1955年9月)の「著者年譜」昭和十七年六月の項に「南滿洲鐵道株式會社調査部の依頼により、ドゥブノフ著「近世猶太民族史」全三巻を翻譯出版。」とある。なお、第二巻の刊行年月日は昭和十七年九月八日、第三巻は昭

和十五年八月十日（奥付にて確認）、詳細は上記年月の項で確認されたい。

国立国会図書館の訳者表示：〔南満洲鉄道株式会社調査部特別調査班〕〔訳〕

* 「南部戦線とソ聯文學」

文藝 10 卷 9 号, 95-99 (1942.9.1)

(訳) 『近世猶太民族史 第二卷 第一次反動時代 (1815 年 -1848 年)、第二次解放時代 (1848 年 - 1880 年)』ドゥブノフ著 南満洲鐵道株式會社調査部編 大連 南満洲鐵道 1942.9.8 1, 5, 413p 22 cm
(注) 出版年月日は奥付による。表紙、例言には昭和十七年三月との記載がある。

「一、本書は、一九三七年リガ發行のシモン・ドゥブノフ著「猶太民族最近世史」改訂増補、露語版第二卷 (С.М.Дубнов: Новейшая История Еврейского Народа, том 2. Рига, 1938) を全譯したものである。當班は曩に一九二三年伯林發行の獨語版により同一原書の第三卷を翻譯刊行したのであるが、本第一卷及び第二卷は都合により露語原著に據ることゝした。併しこのことは何ら本書の内容の一貫性を損なふものでないことは勿論である。(中略) 一、本書は部外に翻譯を委嘱し當班之が校閲に當った物である。」(例言より)

(注) 『ロシヤ・ソヴェト文學史』(河出書房 1955 年 9 月) の「著者年譜」昭和十七年六月の項に「南満洲鐵道株式會社調査部の依頼により、ドゥブノフ著「近世猶太民族史」全三卷を翻譯出版。」とある。なお、第一卷の刊行年月日は昭和十七年六月五日、第三卷は昭和十五年八月十日（奥付にて確認）、詳細は上記年月の項で確認されたい。

国立国会図書館の訳者表示：〔南満洲鐵道株式会社調査部特別調査班〕〔訳〕

* 「南島に傳はる異習俗」

旅と傳説 (三元社) 15 卷 11 号 (179 号), 20-22(1942.11.1)

* 「島の思ひ出 - かけろま歳時記」(本山桂川編『嶋と嶋人』東京 八弘

書店 1942.11.20 所収 pp.1-53

奥付の書名：『島と島人』

「旅と傳説」6年 5-6, 8号 (1933年) 所収論文の再録

- * 「政治か文學か—流麗にすぎた二葉亭 (外國文學の紹介者—露西亞)」
帝國大學新聞 925号, 8 (1942.11.30)
- * 「宿命の町ツァリツイン (隨想)」
サンデー毎日 21卷 50号, 38 (1942.12.20)

昭和 18 (1943) 年

- * 「初等ロシア語講座」東京 橘書店 1943.8.10 [1], III, 228p 19 cm
表紙、標題紙の書名：Начальный Курс Русского Языка.
内容：序 (p. [1])、目次 (pp. I - III)、第一講 (pp.1-12)、第二講 (pp.13-24)、第三講 (pp.25-38)、第四講 助動詞 быть の應用と練習 (pp.39-54)、第五講 (pp.55-67)、第六講 (pp.68-80)、第七講 名詞の格を主とした文章の作り方 (pp.81-92)、第八講 (pp.93-105)、第九講 (pp.106-120)、第十講 (pp.121-132)、第十一講 (pp.133-145)、第十二講 (pp.146-160)、第十三講 (pp.161-174)、第十四講 (pp.175-186)、附録 I. 會話資料 (pp.187-215) II. 各品詞變化一覽表 (pp.216-224) III. 書方の練習 (pp.225-228)
- * 「ロシアの人形芝居 (ペトルーシカ)」
學鐙 47卷 12号, 30-34 (1943.12.5)

昭和 19 (1944) 年